



年頭雑感



VEC関西支部の皆様、明けましておめでとうございます。

今後日本のベンチャーエコシステムの中ではますますシーズの重要性が高まってくるものと思われま。優良なシーズを増やすにはどうすればいいか？私は常々労働市場の柔軟性と教育改革の2点を挙げてきました

企業のメンバーシップ制となっている労働市場の柔軟性を高め、転職は当たり前という社会にする必要があると考えています。そうすれば優秀な大企業の社員がスピアウトして起業に挑戦する機会が増えるのではないのでしょうか。政府の「働き方改革」もそのような方向になることを期待しています。

教育については、最初から正解が決まっているような、記憶力が勝負のジグソーパズル型教育から、課題解決を手探りする教育に改革する必要があります。自分で課題を見つけ、それを解決するためにはどのような仕組みが必要か、どのような製品があったらいいかを考える。本来小中学校での夏休みの自由研究がそのような訓練の場であったのですが、全く形骸化してしまっています。これは受け身の教育から能動的な知識の獲得訓練への転換であり、教師はその手助けをする存在となるのです。そのためには教師の側にも相当な訓練が必要となります。そもそもロボットやAIが日常生活で当たり前になってくれば、人に必要なスキルセットはガラッと変わってくるはずであり、中学や高校の学習指導要領もそれを見越した大幅な改訂が必要ではないのでしょうか。

昨年8月にシリコンバレーの高校教諭を招いて実際に日本の高校生に起業家教育をしてもらおうというプログラム“GTEイノベーションチャレンジ”（Global, Technology and Entrepreneur）が和歌山で始まりました。これは一般社団法人カピオンエデュケーションズが主催するもので、VECも協賛しています。それに参加した感想は、「学び方革命」であり、「教え方革命」であるという強烈なものでした。昨年は関西支部からも澤村事務局長が参加されましたが、今年も7月31日から8月4日の日程で和歌山で開催されると聞いています。是非多くの方々、特に教育関係者にこのプログラムに参加してほしいものです。

一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター
理事長 市川隆治

～比叡山山麓・最乗院住職 高川慈照律僧とVEC関西支部 本田支部長との新春対談～

2017年の新春対談は天台宗総本山・延暦寺（大津市）の浄土院で三大地獄のひとつと言われている厳しい十二年籠山行を満願された最乗院 住職律僧の高川慈照(70歳)様から本田支部長と修行や2017年を迎えるのヒントなどについて語っていただきました。



(最乗院)

◎十二年籠山行はどのような修行でありますか。また十二年間の期間はどのような意味がございますか。

蘇悉地羯羅経（そしつじからきょう）という経典の中に「最下鈍の者もひとつの事を十二年を経れば必ず効果が出る」とあり、十二年籠山して勤めればたとえ重罪でも成仏できると説かれる。そして物事を成しとげるには若い時に下積みを経験することが必要である。

<十二年籠山行>

好相行という厳しい毎日の行から入り、その後たった一人で山に籠って浄土院（最澄上人の御廟）にて一步も出ずに毎日献膳・勤行、清掃と学問にもとづく修行を十二年間続ける厳しい修行。たとえ病気になるうと親の葬儀であろうと山を降りることは許されない。現在戦後7人目の侍真僧が籠山中。

◎経典に述べられている「無財の七施」とはどのような施しでありますか。

雑宝蔵経（ぞうほうぞうきょう）の第6巻に説かれており、財を使わなくても人々に良い縁・喜びを与える七つの教え。慈悲の実践である無財の七施は次のとおりです。

1. 眼施（げんせ）・・・やさしい眼ざしで人に接する。
2. 和顔施（わげんせ）・・・にこやかな顔で接する。
3. 言辞施（ごんじせ）・・・やさしい言葉で接する。
4. 身施（しんせ）・・・身体でできる奉仕。
5. 心施（しんせ）・・・他の人に心をくばる。
6. 床座施（しょうざせ）・・・席や場所を譲る。
7. 房舎施（ぼうじゃせ）・・・自分の家を提供する。



(高川住職と本田支部長)

◎今年の干支は酉年（とりどし）で朝一番に鳴くので縁起が良いとか、「とり→とりこむ」で商売にも縁起が良いとか言われていますが、今年我々はどのような心構えが必要でしょうか。

酉は酒に通じることから酒造りには実が豊作となっている状態なので、成る・成熟・結実する意を持っている。昨今は不透明で不安定な状態であり個人主義や貧富の格差拡大により、いわゆる中間層が薄くなると購買力も弱くなり不安感も増大する。世の中は転換期を迎えつつあり例えば内部留保が十分な大企業などはその資金を抱え込まず教育や文化にも拠出して日本の為に尽力して欲しい。

◎当財団（VEC）はベンチャー支援が目的ですが、アドバイスやご意見をお願い致します。

「育てる」という事は本当に重要なことである。貴財団はベンチャー育成を担ってみるので国をあげて育てることへのサポートを願います。江戸時代にあった寺子屋の考えが必要です。ベンチャーは大企業がやれない新製品の開発、大企業を巻き込んでの海外進出や連携などを行ない、国は若い人や女性が活躍できる環境づくりを望みます。

新年を迎えるにあたり高川住職から貴重なお話しを賜わり、改めましてそのお人柄やお考えにつきまして敬意の念を深めることができました。

琵琶湖を眼下に素晴らしい眺めと静寂の中で対談させて頂き、2017年も希望と夢が実現できる年であることを祈りました。

記：VEC関西支部 事務局

台湾のお正月行事—道教の「平安灯」

台湾のお正月は日本と違って、旧正月である。お正月行事は旧暦12月31日の大晦日（除夕）から1月15日の提灯祭り（元宵節）まで、約二週間に渡って様々な活動を行う。大晦日は日本と同じく、家族全員集まって年越し料理（年夜饭）を食べて、そして、深夜0時を過ぎると新年になる。そのとき、家々は爆竹を鳴らして、旧年を送り新年を迎え、一年の無事と平安を祈る。春節の期間では、子供にお年玉をあげるや、お嫁に行った女性が実家に帰って親と兄弟と一緒におせち料理を楽しむなど、いろいろな習慣がある。そのほか、宗教にかかわる行事も多い。そういう行事は宗教によって様々だが、台湾で一番信者が多いのは道教である。

道教の信者はお正月にみんな揃って初詣に行く風習がある。老若男女を問わず、道教寺院にお参りをし、去年1年の感謝を捧げたり、新年の無事と平安を祈願したりする。参拝するとき、「平安灯」をライトアップという伝統がある。「平安灯」の種類が多く、道教寺院によって少々差異がある。一年の無事を祈る場合は「太歳灯」、金運を祈る場合は「財神灯」、健康を祈る場合は「薬師灯」、そして、合格祈願と学業成就のお守りは「光明灯（写真1）」である。

申込希望者は申請書にお名前や旧暦の生年月日及び出生時間など記入して、相当のお金を寄付したら、自分の名前と生年月日及び出生時間はライトの下に付けられる。これで、この一年間、このライトはあなた一人のために光る。

点灯の申請は年に一回。でも、点灯を申請した人にせよ、申請しなかった人にせよ、たとえ合格祈願と学業成就を祈願したい場合、受験票などを前卓に置けば（写真2、前卓上の透明な箱）、神様が守ってくれるという。

お正月行事は国、地域、宗教によって全く違って見えるが、人の祈願することは一緒だ。どんな形式にしろ、人の心を安定させる効果が期待できる。皆様、一度台湾の春節に遊びに来てみませんか。きっといい体験になりますよ。

文、写真 / 台湾高雄 洪淳澄

洪淳澄 様のプロフィール

台湾高雄出身。国立高雄第一科技大学応用日本語学部大学院卒。サービス業、貿易業、製造業、電気・電子機械器具製造業などの経験を積んで、現在はフリーランス翻訳者として、日本語の翻訳及び大手企業の社刊や出版社が出版する専門書籍の翻訳を行ってられる。

翻訳した書籍

《世界で一番やさしいエコ住宅：110のキーワードで学ぶ》	《图解環保住宅》（初版）易博士2014年9月30日出版
《世界で一番やさしい建築材料：110のキーワードで学ぶ》	《图解建築材料》（初版）易博士2015年7月14日出版



写真1 (光明灯)

共同翻訳した書籍

《シャープ「企業敗戦」の深層》	《鴻海為什麼贏得夏普：前夏普技術長為你揭開百年品牌犯下的二大致命失策》商業周刊2016年6月23日出版
-----------------	---



写真2 (高雄三鳳宮の中壇元帥光明灯殿)

2017年出版する予定

《世界で一番やさしい仕上材（内装編）110のキーワードで学ぶ》	翻訳完成、2017年出版する予定
《FinTech入門》	翻訳完成、2017年出版する予定

<VEC事務局からのコメント> 洪淳澄 様は学術書などを日本語に翻訳や通訳をされている才女です。日頃は台湾高雄で仕事をなさっていますが、日本にも時々来られています。皆様高雄へご訪問の際は機会がありましたら是非お会いされては如何ですか。

娘を訪ねて三千里—ドイツへの旅（1. ライプティヒ編）

訳あって、28年前に、女房や子供たちと別れた。それっきりずっと音信不通であったが、ひょっこり連絡が取れて、下の娘が今、ドイツに行って、ドイツ人と結婚して、ライプティヒという所にいることが判った。どうしても会いたい！止むに止まれぬ思いで、思い切った会いに行ってきた。

まず関空からルフトハンザ機に乗ると、直行でフランクフルトに行き、乗り継いでライプティヒに到着した。一人旅で言葉も分からず不安もあったが、何とかたどり着いた。娘はずっかり一人前のレディになっていて（別れた時は高校三年生だった）、幸せに暮らしているようで、まったく安心した。あくる日、娘夫婦がライプティヒの町を案内してくれた。もともとドイツでは、古い大学の町で、ゲーテやニーチェ、森鷗外が学んだところだ。今は大学と町とが渾然一体となって溶け込んでいる。大学の教室がゲームセンターの上にあたりする。驚いたのは回転寿司の店があったことだ。大いに流行っているらしい。最初に行ったのは、バッハが演奏活動をしていたトーマス教会だ。バッハは教会の祭壇の下に埋葬されている。夜になって、ゲーテも良く通ったという酒場「アウアーバッハス・ケラー」に行ってきた。ここはゲーテの「ファースト」に登場するため、世界中の人たちが来ている観光名所だ。なんと16世紀から600年近くも続いている酒場だ。ビールが美味しい！



（娘と私）

ライプティヒの町は比較的安定しているように、見受けられた。多くの観光客が溢れ、経済的にも落ち着いているようだ。ライプティヒは元東ドイツで、その後遺症があるかと思われたが、あまり感じられなかった。あくる日、娘夫婦と今度は汽車でベルリンに向かった。

株式会社セールスレップコラボ 代表取締役 堀部 武司

～話題の名古屋グルメ!!～

TVメディアでは「もっとも魅力のない街、名古屋」として、週刊誌では「名古屋は嫌いだ!」、「名古屋を襲う空前の大ピンチ!!!」などネガティブなネタとして取り上げられることが近頃増えている、政令指定都市の中で国内3番目の人口を有する街。そんな名古屋のご当地グルメ(?)について整理をしてみようと思います。

まずは、なんといっても手羽先。全国的に有名なのは“世界の山ちゃん”でしょうか。こちらは胡椒を効かせた、お伴のビールの消費が進むエスニックなテイスト。もうひとつ、“風来坊”に代表される甘辛テイストの手羽先も古いファンがついています。

次に、あんかけパスタ。地元では、“ヨコイ”や“チャオ”が2大ブランドとして定着しています。どちらの店にもある「ミラカン(=ミラネーゼ+カントリー)」という、2種類の人気パスタを一緒にお皿にのせましたという贅沢なメニューをお楽しみ下さい。

忘れてはいけないのが、味噌を使った食べ物たち。“山本屋総本家”の味噌煮込みうどんや、“矢場トン”の味噌カツはよく知られています。他にも、牛すじやホルモンを煮込んだ土手煮や、味噌おでん、木の芽田楽（焼き豆腐）も、古くから営業している名古屋の食事処では提供されています。

スイーツの分野では、喫茶店の定番メニューとなっている小倉トーストを、是非ご賞味下さい。こんがり焼いたトーストに塩気の効いたバターやマーガリンをしっかりと塗って、その上に粒あんペーストをのせれば、ご家庭でも気軽に楽しむことができます。

最後に、ラーメンの話を少しばかり。最近、東京の神田へ進出を果たした“味仙”の台湾ラーメンは、辛い物が好きな人にはたまらない逸品です。ラーメンを一口すすむだけ、別次元の辛さがあなたの喉を刺激して、思わず咳き込むこと間違いなしです。それから、“新京”系列のペトコンラーメン（ペストコンディション・ラーメンの略）は、目立たないですが地元民には愛されている、一度食べたら病みつきになる深い味わいのラーメンです。ただし、ニンニクがゴロゴロ入っているので、このラーメンを食べた後に、人混みへ出かける場合は要注意です。すれ違う人から露骨に邪険な扱いを受けることになるでしょう。

以上、名古屋グルメ（ほぼB級グルメですね…）に関するレポートをお送りしました！

名古屋出身のキャピタリスト 阿部 剛久



新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

(一財)ベンチャーエンタープライズセンター 関西支部一同
本田 英行・藤本 陸美・濱本 妙子・澤村 佳宏



中小企業の医療機器分野進出の難しさ

5年前、当社が出資している企業（仮にA社としておきます）の社長より医療機器分野に進出したいとの相談があり、小生もその会社の役員をしています関係上、色々な事項に携わり医療機器分野参入に関する経験をさせて頂きました。今回は、医療機器への参入について少し気づいた点を書きたいと思います。

以前、「下町ロケット」というドラマの後半で、心臓手術に使用する人工弁の開発に取り組む様子が描かれていました。この物語にはPMEAという厚生労働省傘下の法人が登場し様々な嫌がらせをしてくる場面がありました。このモデルとなったのが独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）という組織です。実際に、PMDAの認可を得なければ医療機器として使用できません。

医療機器と言っても、我々が最先端の医療機器、例えば、MRIとか医療用ロボットを設計製造することはまず不可能です。そこで、A社の社長と私は大阪商工会議所が開催しています「次世代医療システム産業化フォーラム」に参加し情報収集に努めました。このフォーラムは、各地の医学部、大学病院、地域の中核病院などの医師、看護師が、今、医療現場でどのような機器が必要とされているのか、このような機器があればもっと便利になるとか、現場の医師、看護師がそれぞれの専門分野についてニーズを発表するものです。

これら発表された要求に対し、自社で取り組み可能であれば大商を通じて申し込むと、発表した医師、看護師と直接面談できる場を設定して貰えます。また、医療機器の知識に乏しい中小企業に対しては、アドバイザーが指導して貰えます。

今回、当社とA社は、独立行政法人国立病院機構の中の一病院の医師の要望に応え製品化しましたのが「開創器」と呼ばれる手術機器です。開創器とは、開腹、開胸手術の際、術野を確保し固定する機器のことです。手術中、執刀医が術野から外れた部分を見る場合、助手の医師が手で広げ保持することが一般的だそうです。手術が広範囲になる場合は数名の医師により手術を行うようです。看護師には切開部分を広げることはいけません。

開発しました「開創器」は、柔軟な構造を要し、医師が術野以外の部分を見たい場合は、自ら簡単に術野を拡大し、且つ、広げた部分の固定が可能なシンプルな構造となっています。

現在、A社は医療器製造業の許可を得、更に、知り合いの医療機器製造販売業の企業を通じ、PMDAの審査にも合格し医療機器として販売できる要件を満たすことができました。これら研究開発の中で、色々感ずる点がありました。

まず、医療現場で本当に困っていることは何か？というニーズの把握です。現在、商工会議所、都道府県、市町村などが、医療関係の交流会とか、フォーラムを数多く立ち上げ多くの医療現場のニーズが提示されています。しかし、これらのニーズを満たした製品を完成させても、販売できる数量も解らず、中小企業として将来を掛ける製品となり得るのか全く不明で不安ばかりです。医療現場との連携で試作品が完成すると、知的財産権（特許、意匠等）の申請を行います、数件になる場合もあり、海外出願もすれば費用もばかになりません。また、製品として完成したとしても、「医療機器製造業許可」（クラスにより4つに分類）の取得、医療機器登録製造所に対して、医療機器の製造管理及び品質管理に関する基準であるQMS（Quality Management System）を取得するために、製造設備の改修、新規設置、社内マニュアルの整備、従業員の教育・・・等々。乗り越えなければならぬハードルが続きます。中小企業であれば、このあたりで既に息切れしてアップアップです。

更に難題は上記のPMDAの認可です。我々が様々な講演会で聞いていましたPMDAの認可手法は正論過ぎて殆ど役立ちません。機器に使われる材質、表面加工が医療機器として適切であるかどうかの証明、また、機器としての様々な方面から見た危険度に対する対処方法・・・。ここまで来ると中小企業だけの力ではどうにもなりません。

PMDAに製品を持ち込み高い審査料を払ってもあえなく返り討ちにされる可能性が大きくなります。

A社と当社は様々な大学からご指導を頂き、またPMDA認可申請についても同じような製品を製造販売している企業の協力を得てやっとの思いで認可を貰いました。しかし、これからが大変です。開発しました医療機器を拡販するために、どのような手段を講じれば良いか、様々な選択肢の中で進めて行かなければなりません。

政府も中小企業が医療機器分野に参入するよう促す施策を行っていますが、本当に医療機器分野に新規参入を考えれば、中小企業の経営者は相当の覚悟をもって挑まなければならないということを身をもって体験しました。まだまだ苦難の道は続きます。

最後に介護関係の製品（特に消耗品に類するもの）はニーズに基づき材料、加工を特別仕様で製造しましても、最終ユーザーでは結局「百円均一」を引き合いに出され「高い」と言われます。このように言われるとやり甲斐がなくなりますね。医療機器分野への進出がいかに大変であるか身をもって体験させて頂きました。



新和商事株式会社
代表取締役社長 森下喜郎

【女性起業家応援プロジェクト（LED関西）開催される】

・LED関西とは？

女性起業家の事業成長をサポートすることを目的に経済産業省(近畿経済産業局)が実施する「女性起業家支援ネットワーク構築事業」の「関西女性起業家応援プロジェクト&ネットワーク事務局」が一体となりビジネスプラン発表会（LED関西）の中核イベントとするプロジェクトです。（Ladies' Entrepreneur Discussions）

・支援メンバー

サポートのメンバーはサポーター（VECもメンバー）・地方自治体・地域支援機関・アンバサダー・メンター等で構成され、女性起業家のステージに合わせたサポートを目指すものです。

・ビジネスプラン発表会

今年はグランフロント大阪で平成29年1月24日（火）、多数の参加のもと盛況に開催されました。そして90名のビジネスプラン応募者の中から選出されたファイナリスト10名がビジネスの熱い思いをプレゼンされ参加者も女性の活躍振りに感嘆されていました。また当日の参加者は約450名（来場者登録）と過去最高となり、女性が多数参加されたこともあって大変な盛り上がりでありました。

VEC関西支部が一票を投じました、モリタ製パン所 代表 森田優希子様には今後講演会などをお願いして行きたいと思っています。



娘を訪ねて三千里—ドイツへの旅(続)(2. ベルリン編)

ライプツヒからベルリンへは、日本の新幹線のようなICE特急が走っている。約1時間15分で着く。向こうの駅は改札口が無い。切符を買って、いきなり乗車する。でかいベルリン中央駅から、地下鉄に乗って、まずはベルリンの象徴であるブランデンブルグ門に向かった。

1788~91年にプロイセン王国の凱旋門として建てられ、ドイツの幾多の運命に翻弄されながら、毅然として立ち尽くす様は、まさに統一された現代ドイツを象徴している。世界中の人種の観光客で充ち溢れていた。

大阪の中之島のようなところに、5つの博物館が集まっている。壮観である。

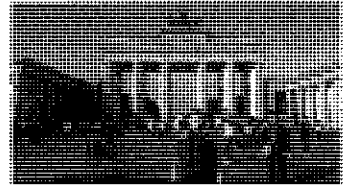
特に有名なのは、ベルガモン博物館で、古代バビロニアの「イシュタル門」や「行列通り」など、そっくりそのまま移転されて、展示されている。まったく圧倒されてしまった。この博物館の島を巡っているだけで、2、3日はかかりそうだ。

近代建築の並ぶポツダム広場で、昼食を取って、いよいよベルリンの壁に向かう。壁は一部残されていて、その壁に沿って、プロイセン時代からナチスドイツの第3帝国時代を経て、そして東西ドイツの分裂、統合を経て現在に至る歴史が展示されている。

日曜日であったせいか、ベルリンは穏やかで、観光客が溢れ、景気も好いようだ。問題はやはり難民問題であろう。一部危険な箇所があり、荷物に気をつけるように言われた。駆け足のドイツ遍歴であったが、得るところは多かった。

娘の元気な姿を見て、安心し、無事、生きて行ってくれることを願った。

(株)セールスレップコラボ 代表取締役
アイこころ心理学研究所 所長 堀部 武司



<ブランデンブルグ門にて>



<ベルリンの壁>

台湾、嘉義県・嘉義市を訪ねて。

皆さんは2015年に日本でも公開された台湾映画「KANO (カノウ)」という作品をご存じだろうか。日本統治時代に嘉義農林学校野球部が日本人監督のもと台湾全土で優勝を果たし「一球入魂」を志し甲子園へ出場し、甲子園でも感動の試合を続けていく実話を基にした映画である。・見終わった後、当時の台湾人と日本人の交流に心を打たれ、その感動を胸に当時の投手であった呉明捷(ゴメイショウ)の銅像もある「KANO」のロケ地、嘉義市へ向かうことになる。今回は高雄→台南→嘉義市というルートであったが、新幹線で行くこともできる。私は台北には幾度が訪れたことがあるが「嘉義市」には映画以外殆ど知識もなかった。しかし、いざ足を嘉義市に踏み入れてみると年間を通して温暖な気候、空気が澄んでいるせいか体によい「気」感じながら街全体も安全・きれい(ゴミなし)・食事の醍醐味・ナイトマーケットの楽しさ・歴史ある建造と現代アートがうまく調和していて、見て学ぶロケーションも多い。これは日本の女性が大好きなワードばかりである。それと何と言っても一番は現地の人々の心の温かさである。台湾の方々より現在我々が忘れかけている人情という言葉の再確認をさせられる。

ここで嘉義市政府主催の毎年12月に盛大なる「嘉義市国際管楽節」をご紹介したい。嘉義市を「人文都市・吹奏楽の都」として国際交流のプロモーションの一環で、参加されるチームは台湾だけでなく日本をはじめ様々な外国の楽隊が街頭をパレードし、そのパレードを市民の方々の声援に見守られながらスタジアムまで行進して行く。参加する側、見る側が一体となり管楽パレードというより本当に見応えのあるお祭りのようで人々の顔が皆、笑顔であるのが最高であった。私も恥ずかしくもなく日本のチームがパレードして来ると思わず大声で「頑張っ〜!」と叫んでしまった。

又、台湾嘉義県南部にある阿里山も有名である。ヒノキが多く自生しており日本でも多くの仏閣にも使われている。嘉義県太保市に2015年12月に「故宮南院」がオープンしており台北の本館の別館でもあり多くの芸術品が我々を出迎えてくれる。本当にまだまだ書ききれないほどの興味深く又、人に優しい「台湾・嘉義市」。

次回訪れるまでには時間をかけもっと知っておきたいこれからの私の安らぎの場所でもある。この旅を機に知り合えた嘉義市の皆様へ感謝を申し上げたい。

記：関西支部 濱本 妙子



<故宮南院の正面玄関内>



<2016年嘉義市国際管楽節パレード風景>



トピックス

～すみれナレッジ代表 岡部佳子様が文庫本の新刊を発行されました～

現在、中国ビジネスのサポートや留学生の教育に従事されている関係から2017年1月20日に新潮新書(新潮社)から文庫本を発刊されました。

タイトル:「中国人観光客の財布を開く80の方法」720円(税別)

全国有名書店等で発売中との事にて読者感想などご本人にお伝え下さい。



関西支部 事務局

～VEC関西より～

・日本列島、今一番冷え込む季節です。毎年の事ですが、1月には降った雪が数日間我が家の庭に積りました。雪景色には、お月さんが似合います。木に積もった雪の向こうにまん丸い月が澄んだ空を照らします。寒いので、チラッとしか見ないのですが、それだけにいつまでも心に残ります。それから熟爛での夕食の始まりです。楽しみましょう!冬の寒さを・・・。経済の寒さは困りますが・・・。(本田)

・久しぶりに日帰りバスツアー(湯村温泉)に行ってきた。もちろんカニ食べ放題です!・・・途中大雪でしたが渋滞も無く現地に着いたら晴天で添乗員の方も「皆様の日頃の行いの賜物ですね!」って。湯村温泉のゆで卵、浜坂のカニ・海鮮ほか満喫してきました。(藤本)

・今年の初詣は「健康が一番」を祈願するため大阪市中央区道修町にある少彦

名神社(神農さん)へ行きました。大阪の祭りは今宮戎神社の「十日戎」ではじまり少彦名神社の「神農祭」で終わるらしい。場所も大阪の道修町という周りが錚々たる製薬会社でもありお正月の静寂の中で気持ちも新たに落ち着いた時間の中で粛々とお詣りができました。(濱本)

・VEC評議員の森下社長から新分野進出へのご体験について今回も勉強させて頂きました。観光ツアーにない2件の海外の現地情報と岡部様の新刊発行は年初に相応しい話題で、皆様のご活躍を期待します。(澤村)

<交流会の予定>

平成29年3月14日(火) (独)日本貿易振興機構(JETRO) 大阪本部 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293



社会人が海外で学ぶことの成果とは



<カタルの
ファイナンシャルセンターにて>

皆様初めまして。柳野国際特許事務所の弁理士の柳野嘉秀と申します。

私は、2015年7月から2016年10月まで、イギリスのボーツマス大学大学院 “MSc Innovation Management and Entrepreneurship” というコースで学んでいました。世の中に、留学してみたいという方は大勢おられると思います。私は幸運にも今回の機会を頂けましたが、現実的なところで様々な障害があり、断念してしまう方もまた多いと思います。また、たとえ留学したとしても、具体的にどのような成果があるのか明確な答えが得られず、二の足を踏んでしまうケースも多いと思います。

そこで、私自身の経験をお伝えすることで、特にこれから海外に出ていきたいと思っている皆様が具体的なイメージを抱けるお手伝いができればと思い、今回寄稿させて頂くことになりました。早速ですが、留学における成果とはどのようなもののでしょうか。私は、大別すると有形の成果と無形の成果の二つがあると思います。このうち多くの人が求めるのが有形の成果で、例えば、TOEICが〇点になった、〇〇という資格がとれた、大学の成績が優秀だった等です。しかし、個人的には、こういった有形の成果より、無形の成果の方が大切なものであると思いますし、また無形な成果を得ようとする中で、その結果として有形な成果もついてくるということもあると思います。例えば、私はイギリスで多くの異国の友達がたくさんできましたが、短絡的にはそんな彼らと話をしている、有形の成果を得ることはあまりありません。しかし、例えば海外の異文化の人たちと話すことにより、全く違う視野を得ることができます。この視野や考え方こそ、日本では得ることのできない無形の成果の一つだと思えます。

具体例として、中東出身の友人と話をしていて、宗教の話になりました。日本では仮に何らかの宗教を信じていたとしても、生活は生活、宗教は宗教と線引きされているケースが多いと思います。従って、日本人が例えば仏教徒と言っても、そもそも禁忌を知らないことが多いですし、知っていても常に禁忌を避ける、という人は珍しいと思います。しかし、中東の人たちの多くは、敬虔なイスラム教徒です。彼らにとり、コーランに書いてあることは正しく、それに従って生活をしなければならぬということです。人によっては、生活が宗教のためにあるといっても過言ではない人もいます。従って、コーランに書いてある禁忌を知らないということはありませんし、禁忌を破ることも当然タブーになります。同じ宗教といっても、日本人の考え方と、中東の人のそれとは全く異なるわけです。

こういった考え方や文化の違いは、海外で生活する場合は勿論、仕事をする上でも絶対を知っておかねばならないことです。文化の違いは必然的にマーケットのニーズの違いにつながります。極端な例ですが、お酒を飲むことが禁忌の国に、どれだけ高品質のお酒を売り込もうとしてもマーケットはありません。マーケットのニーズを掴むためには、時として日本の常識=他国の非常識、であることを知らなければなりません。

勿論、そのためには英語力も必要です。異文化に興味を持ち、積極的に交流をする中で、必然的に英語力も向上し、有形の結果も得られることとなります。

日本にも多くの外国人が訪れるようになり、同僚に外国人がいる企業も珍しくなくなってきているかもしれません。

しかし、(よほど積極的に交流しようとしないう限り) いまだ日本で知りうる人の99%は日本人です。日本人同士では、基本的に大きく考え方の異なる人が少ないので、考え方の違いが表面化することが少ないです。以心伝心、といった言葉があるのもその典型です。

しかし、海外の人とコミュニケーションをとり、仕事をしようとする際に、異文化への不理解は摩擦を呼ぶ原因にもなってしまいます。

もし、今海外に留学に行こうか迷っている方がおられましたら、こういった無形の財産を手に入れられる可能性があることを、是非念頭に置いて下さい。また、これから海外市場に挑戦したいと思っている企業がありましたら、是非、社員の方に海外の文化を体験させてみて下さい。そしてその際に、具体的な成果のみを求めるのではなく、無形の成果の重要性も理解して頂ければと思います。

今後海外に挑戦してみたいという方々や企業にとりまして、この寄稿が少しでもお役にたっていれば幸いです。

柳野国際特許事務所 弁理士 柳野嘉秀

~VEC市川隆治理事長のコラムから~

2017年1月18日付VECニュースリリース「コラム-DECA-」に掲載の当財団市川理事長シリコンバレー視察でのレポートをご紹介します。「日本でもまず高校生のときから世界に並ぶ起業家マインドが必要で世界に伍する起業家を日本から排出」のコラムであります。

◆コラム — DECA — 2017年1月18日

VEC東京本部 理事長 市川隆治

今年の正月は大変忙しく、また、有意義な時間をシリコンバレーで過ごすことができた。Harker高校を訪問し、生の高校生起業家教育の一端を拝見した。日本ではおおよそ考えられない、聞いている人のエモーションに訴えるプレゼンテーションの仕方とか、株やクレジットカードの使い方といった極めて実践的な内容に、教師が熱く語りかけ、生徒も積極的に質問していた。“Active learning”の模範のような授業であった。また同校のExecutive DirectorのRosenthal校長との昼食会の時の話題では、彼等の考えているのは、飛び抜けた生徒のサポート(マイクロソフトのイベントのGuest Speakerで授業に参加できない生徒)と高校生では遅いと考える起業家教育をどのように中学レベルに導入すべきかといったトピックスだったのには驚いた。もう日本との差は何もしなければ広がるばかりだと感じた。

さらに翌日、全米でビジネス界における次世代リーダーを育成するためのプログラムである“DECA”のシリコンバレー地区大会にも参加することができた。地区大会だけで700人を超える高校生が参加し、それぞれ20科目はあるマークシート試験や面接試験、さらにはビジネスプラン作成試験に臨んでいた。私が参加した面接試験では、試験会場と与えられる課題について10分間酒々とプレゼンテーションをこなし、審査員の質問にも回答しなければならない。DECAのキャリアクラスターは、大きく、①マーケティング、②マネジメント、③ホスピタリティとツーリズム及び④ファイナンスといった4つから構成されており、この点でSAT(Scholastic Assessment Test)やACT(American College Testing)といった他の能力試験と差別化されている。米国の大学では広く認知され、入試に際してもDECAでの活躍は評価されるという。1946年に設立されたDECAは、米国教育省の認可を受けており、今やカナダ、ドイツ、中国、韓国等にもその活動は広がり、全世界で20万人を超える高校生がDECAに参加しているという。しかし、残念ながら日本の参加は見られない。

起業家教育というと通常大学や大学院レベルを想起するが、実は日本においてはもっと前の段階から考える必要があると思う。高校を卒業するまで全く起業やビジネスについての学習もなく、大学に入学したからといっていきなり起業家教育と言われても学生たちは関心を持ちようがない。

GEM調査(Global Entrepreneurship Monitor)における起業活動率(各国の起業活動の活発さを表す指標:TEA:Total Early-Stage Entrepreneurial Activity)において、日本は毎年最下位から数えた方が早い位置に甘んじているのはそのためではなからうか?

国民全体に起業についての関心が低い。受験戦争に勝ち残り、いい大学から大企業に就職するという安定志向路線が成功してきた期間が余りに長かったため、大企業もかつてはベンチャー企業であったこと、大企業と雖も激動する世界にあっては大海の小舟のように不安定であることを忘れてしまっている。思うに、「起業」とは、芸術やスポーツのように、素質のある人物に必要な知識と訓練を提供し、うまくチームを組んで成功を達成するものではないだろうか?芸術やスポーツにおいては高校生やさらにその下の段階で、コンクールや国体といった場が提供され、切磋琢磨して優勝をめざす。その切磋琢磨があるからこそ技能が磨かれ、世界の舞台でも活躍できる素地ができあがるのではないだろうか。

DECAは正に高校生における起業分野における切磋琢磨の場である。やることはマークシート試験や面接試験であるが、そのノリはまるで体育会系である。開会式で学校別の余興があるが、自校の代表が舞台上上がるとフロアから大歓声が挙がる。それが試験になると服装もジャージからスーツにネクタイと、ガラッと変わり、プレゼンテーションは真剣そのものである。ちなみにシリコンバレーという土地柄、インド系と中華系が白人よりも多いという印象を受けた。生徒たちは顔の色に関係なくふざけ合い、談笑しているようであった。試験が終わった夜はダンス大会だった。絨毯を気にしてか、大ホールの真ん中に板が敷かれ、その上だけが彼らのロックに興じる舞台となる。今後は、高校生のentrepreneurship世界標準ともいべきこのDECAの活動に日本としても参加し、まず高校生のときから世界に並ぶ起業家マインドを持ってもらい、その上で大学・大学院における起業家教育でさらにビジネス実務に近い技能を磨き、世界に伍する起業家を日本から輩出するようにできればと考えている。

(注) DECAはDistributive Education Clubs of Americaの略であるが、70年前の元々の名称の意味は薄れ、DECAだけで通用していると聞いている。

(VEC HPより)

◆トピックス

～株式会社アトラステクノサービス 代表取締役 鯛かおる氏が「関西財界セミナー賞2017」で「輝く女性賞」を2月10日（金）国立京都国際会館で受賞～

多方面にご活躍中でVEC交流会にも参加されています鯛かおる社長が今年の実賞者6名の中に選ばれました。特許商品である「ろ過装置」の技術力や女性経営者・技術者としてのご活躍、栄養士やフードコーディネーターのスキルをいかした農業産品のブランド化などが高い評価を得た受賞です。これからもさらなるご活躍を期待いたします。

VEC 関西支部 事務局

観光都市・京都を読み解く方法－醍醐味の〈場所(トポス)〉

京都市東山区の高台寺から清水寺に向かう「二年坂」にインバウンドの方々を魅了する不思議な路地があります。その何気ない路地に、多くの外国人観光客の方々がカメラやスマートフォンを向け、興味深々な様子で路地の奥を眺めています。京都人に説明するならば、老舗の洋食店がある路地といえはわかるかもしれません。

三つ葉のクローバーとyasakaのロゴのタクシー・ハイヤーや観光バスでおなじみの会社で、京都へ進出される企業の事業所や店舗の誘致を専門に取り組んでいます。京都で仕事をする上で、「京都を読み解く鍵は〈近代京都〉にある。」そんな確信を持っています。「京都地籍図」と「京都市明細図」が〈近代京都〉を知る基礎資料になります。特に「京都市明細図」はWEB上で公開され便利になりました。例えば、二条城前の「旧京都国際ホテル」の敷地は福井藩邸跡として知られていますが、調べると大正期は「三井邸」であったことがわかります。「三井八郎右衛門高棟伝」によると、実は江戸期から「油小路邸」と呼ばれた三井本邸で、幕末に藩邸確保に苦心した福井藩が、豪商三井家の本邸を借り受けたというのが事実のようです。幕末の福井藩主といえば政事総裁職として活躍した松平春嶽です。二条城の前は最高の立地だったでしょう。報道によると三井不動産が取得し、高級ブランドのホテル誘致に取り組んでいるとのこと。旧三井本邸跡という歴史的経緯をふまえるとゲニウス・ロキを感じずにはられません。景気に左右されない、京都の都市格を高めるホテルになることを期待しています。

明治大正期の地元紙「京都日出新聞（現在の京都新聞）」を読むと当時の京都人の将来を見据えた都市基盤の整備やまちづくりに対する考え方を知ることができ、進取のスピリットが直に伝わってきます。京都の観光都市としての取り組みは、1869（明治2）年に太政官が東京に移され、天皇の東幸により京都御所周辺が「狐狸の棲家」となったところからスタートしています。京都を彩る観光要素は全て明治・大正・昭和期に誕生しているといっても過言ではありません。あの清水寺でも名所化して多くの参詣者を集める目的で明治期に境内の雑木を伐採し桜や楓の計画的な植樹を行ったことが寺史に記されています。近年注目を集める京町家も「京町家まちづくり調査」（平成20・21年度）で47,735軒が確認されていますが、江戸期以前に建築されたものは全体のわずか2.1%です。石塀小路や二年坂の京都らしい町並みも明治末期から大正期に建てられたものです。

冒頭でご紹介した二年坂の不思議な路地に面する角地で高塀造町家（伝統的建造物）の活用に取り組んでいます。「世界に展開する店舗のなかでも、この店は日本を代表する店舗にしたい。」「ブランドマネージャーを本国から呼びコンセプトを造り、建物に合わせて全てカスタムメイドで対応します。」京都を特別な事業地と考えていただいているテナント企業の方々と想いを実現する仕事です。各町内にそれぞれの歴史とまちづくりへの想いがあるのが京都です。仕事の舞台が京都である醍醐味を日々実感する今日この頃です。



彌榮自動車株式会社 不動産課長 熊谷 保
(京都産業大学 日本文化研究所 上席特別客員研究員)

震災の日に想いを寄せて ～元気なシニアベンチャーがいっぱい～

今日2017年1月17日。新聞の朝刊に6434本のろうそくが点灯し阪神淡路大震災の追悼の美しくも荘厳な写真が掲載されている。22年前海を隔ててすぐの堺で強い揺れにビックリしてとび起きた。次々と映し出されるテレビの映像に目を疑った。芦屋にはイマジン研究所の役員である師匠百々達郎（VEC関西支部、初代支部長）又、仲の良い会計士 木村隆氏、歯科医 高木先生がいる。まず安否確認の為私が紙に名前を書いて心を落ち着かせて「フーチ(波動測定装置)」でダウジングを試してみた。百々先生の波動は全く動かず「あかん、これはひょっとするとダメかなあ」それ以外の方々は皆元気そうでした。

数日後西宮北口から歩いて芦屋に！先生は木造の古い日本家屋の1階で下敷きになり奥様は入院され先生は目に沢山埃が入り、しばらくは視界ゼロだったらしい。

近くのマンションに避難されていた。先生によく似た娘さんが早やワザで東京からご主人と来られてマンションの水の流れない便器の大掃除を手できれいにされていた。さすが百々達郎の娘さんでした。その日私は20年間営業してきた店が全壊となり数千万円の損失と仕事を失った。そして働いてきた北新地を卒業となった。

さて、折角書き始めたのだから最近の情報を聞いて下さい。80歳すぎた元気なベンチャーおじさんを紹介します。何度も書いてきた空気利用の発電機（120K 6台）はいよいよ日本に上陸したよ。勿論作っているのは米国、何でアメリカに持っていったのと皆さんからお叱りを頂きますが、日本でのシュミレーション直前に各省庁よりストップが入り、昔トランジスタラジオの開発で商いをしていた彼のパートナーがマサチューセッツ工科大学に持込み規格まで取得した。これから日本でどう育てていくか応援宜しく頼みます。もうおひと方のおじさん、油の水まし、エコ燃料(加水燃料)を作っておられて石油会社を立ち上げました。これから上場予定で投資家を募ります。

大学機関との連携で学術的な裏付けをやらないといけないので百戦錬磨の経験者を社長にと考えている様です。他には知識多くて知恵ない若者に日本古来の忍者学を教えたいおじさんもいます。又、奇跡を呼ぶ寝ているだけで重篤な人が元気になるベッド。勿論セラミックです。温度は65～70度と高いけどそれをあんまり感じない。年末になんと厚労省の認可取得したと情報入りました。この方も81歳です。大阪のオバサン、ますます元気でやりました!! 皆さん交流会でお会いしましたらお声をかけて下さいネ。お陰様です!! ありがとうございます!!

記・H29.1.19 イマジン研究所 代表 廣田 典子

～VEC関西より～

- ・2月は、日本列島冬真っ只中でありました。その中で北野天満宮に梅を見に行ってきました。桜と違ってピンクと白で上品にひっそりと咲いていました。その東側には京都ご花街の一つ、上七軒の街並みが軒を並べ、髪結いさんに行くのか普段着の着物で舞妓さんが二人歩いていました。京都ならではの風景を楽しんできました。春はもうすぐです。(本田)
- ・毎年の確定申告・・・今回は初めてe-Taxで申告書作成して会場に持って行きました。今まで面倒だなあ～と思っていましたが、やってみると簡単！何でもっと早くしなかったんだろうと、(皆様はされてると思いますが)会場では長蛇の列で、まだまだ浸透して無いんだと改めて感じました。私は並ぶことも無くスムーズに終了。(藤本)
- ・自分磨きのため「色彩」に関するセミナーにはなるべく参加するように心がけています。今回は「色彩心理学と上手なつきあい方」をテーマに研究方

法・データ解析と私にとっては大変面白く2時間半の講義はあっという間でした。違った視点からみた色彩心理学の世界は今後の自分には是非とも役立てたいと思っています。(濱本)

- ・柳野嘉秀様には5月の交流会で詳しくご講演頂きます。ご期待下さい。熊谷様は京都検定1級合格者で京都は精通されていますのでまた情報をお願いしたいと存じます。廣田様のご寄稿にあります百々氏(故人)は初代VEC関西支部長として貢献された恩人です。3月号も「てんこもり」となりご協力有難うございました。(澤村)

<交流会の予定>

平成29年4月10日(月) ウエストユニティ株式会社
代表取締役 福田 登仁 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293



変化が激しい時代だからこそ、 アナログの新聞が役に立つ

最近ではデジタル革命が急速に進み、ニュースもほとんどの人が、スマホなどを使ってネットから得る時代になっています。アナログ媒体の代表である新聞は、斜陽産業であるとさえ言われます。

しかし、私はそうは考えていません。環境変化が激しい時代だからこそ、ビジネスに携わる企業経営者にとっては、アナログ媒体の新聞が役に立つということを強調したいと思います。

ビジネスには2つの大きな使命があると私は思っています。1つは明確な使命感、目的感を持って、社会に貢献し続けること。どの会社もその目的を明文化した企業理念、社是を持っています。理念なき経営は、経営とは言えません。ただ、その社会貢献という使命は、継続しないと意味がありません。継続の原資は利益です。したがって、ビジネスを継続するために、売り上げの拡大とコスト管理の意識を持って利益を上げ続けることが、2つ目の使命となります。これが経営戦略です。

経営戦略を実効あるものにするためには、情報が必要です。情報を早く、正確につかみ、世の中の流れ、また、その変化を知って、先を読むことが重要です。そのためには、新聞という媒体が役に立つと考えます。

速報性では確かにネットに一步譲ります。しかし、新聞には次のような、アナログならではの特性があります。

①信頼性、②一覧性、③分析力、④記録性——です。新聞の命は、ニュースのスクープです。ただ、そのスクープもニュースの2大要素、すなわち「真実であること」と「公平であること」が担保されていなければなりません。したがって、新聞記者はできる限り取材の間口を広げて、裏を取る努力をしています。いわゆるガセネタは徹底的に排除します。これが①の信頼性につながります。

また、新聞はニュースの大小を、それぞれの社の価値判断により、1つのページの見出し（タイトル）の大きさによって、読者に伝えています。これが②の一覧性です。③の分析力とは、極めて多くの情報を掲載できるという、紙の媒体ならではの特性を生かして、ニュースの中身、すなわち起きていることの実態だけでなく、そのニュースの背景を解説し、今後の影響を展望して、提言まですることができるといことです。そして、紙の媒体の特性として、簡単に切り抜きができてスクラップ保存ができるという特性も持っています。これが④の記録性で、テーマを決めてニュース記事を集め、時系列に沿って順番にスクラップすることが、流れをつかんで先を読むための最大の武器になります。もちろん、情報を得るためには、新聞だけでは十分ではありません。早く情報を得るためには、ネットの活用も大事です。

ネットで最新のニュースをつかみ、新聞でその中身を詳細に知り、ビジネスに関するニュースであれば、ネットに戻って、その企業や団体のホームページでさらに詳しい情報を得るといったサイクルを回すことをお勧めしたいと思います。

日本経済新聞社委嘱ライター 坂川弘幸



～四支援機関による合同交流会を開催～

- ・3月15日（水）に大阪産業創造館にて「IAG、関西ニュービジネス協議会、大阪NPOセンター、ベンチャーエンタープライズセンター」によるベンチャー企業とサポーター（オーナー企業や支援機関など）との合同交流会が開催され、アドバイスや情報交換など活発に行われました。
 - ・当日はサポーター、ベンチャー、スタッフで総数60名近い参加者があり、テーブル毎に新規参加のベンチャーとサポーターとが同席しそれぞれが熱心に発言され、熱気ムンムンの会場となりました。
 - ・またサポーターの方々には日頃お目にかかれない方も多く、ベンチャーの方には貴重な出会いの場でもありました。
 - ・我々支援機関としましても単に交流だけでなくビジネスが進展できるきっかけ作りとなることを目標に、今後とも行動して参りたいと思っております。
- 皆様ご協力有難うございました。



VEC関西支部 事務局

◆トピックス

～VEC理事の下條武男氏が2010年6月に引続き書籍を発刊されました

昭和6年大阪市生まれの同氏はVEC創立以来、現在も理事としてご尽力頂いております。

1967年3月に日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社を設立され2000年9月にジャスダックへ上場、素晴らしい発展をなされています。

現在は同社名誉会長としてベンチャーの為に長年の間ご支援ご協力をなされ、まさに生涯現役ですが、今年3月の創立50周年を機に発刊されましたので、人生や経営の指南書としてもお勧めいたします。

タイトル「続 楽しくダイナミックに！360°思考で生涯現役」

発行・日刊工業新聞 定価（本体1,500円+税）



元バンカー・キャピタリストとして長年ご活躍されて来られた大江雄治氏に

今までのご経験に基づくメッセージを頂きました。

これからもご意見番として社会貢献されることをご期待いたします。

Q. 長年ビジネスの世界に関われることが出来る秘訣や必要な心得をお教え下さい。

A. 3点申し上げます。

- ・まず自分の将来を考えて「駕籠」に乗る人を目指すことです。（駕籠に乗る人担ぐ人、そのまた草鞋（わらじ）を作る人。の諺から「わらじ」を作る人から「かご」に乗る人になる努力が必要）
- ・上司・同僚・関係者とのコミュニケーション（人間関係）や物事のタイミング、表現の付度（そんたく）が大事です。特に口は禍（わざわい）の元です。
- ・日常の自己研鑽と自己管理の継続は大事です。

Q. 現在、現役でご活躍されているビジネスウーマン・ビジネスマンが今からやっておくべき事は何でしょうか。

A. 3点申し上げます。

- ・どのような仕事の方でも財務・会計の勉強をして下さい。お金の流れを知ることは個人でもビジネスでも必須です。
- ・人生や仕事の先輩と交わる努力をする。経験のある人から学ぶことは多いです。
- ・女性の活躍が広がっていますが、仕事も家庭も共にパーフェクトにこなすのは無理があります。それには男性の協力は必要です。

Q. ベンチャーや創業に対してのアドバイスをお願いします。

A. 4点申し上げます。

- ・資金繰、資金の手当が最優先です。
- ・世間で言われているほど起業は簡単なものでないことを知っておく。
- ・起業した人同志での情報交換や先輩創業者からの経験談や意見を聞き失敗を防ぐ。
- ・関西の上場企業増加のためには、大阪・京都・神戸のブランド力を上げ、海外にも知名度を上げることが必要です。

Q. 今まで企業の役員や監査役など豊富なご経験をされていますが、企業経営者に期待されること何でありますか。

A. 4点申し上げます。

- ・変化に対応した弾力的な経営が必要。
- ・どの企業でも事業継承は必ず来るので準備は早めに。
- ・役員は経営者や会社の為に積極的な提言・行動が求められる。
- ・監査役も正しい企業経営のために自己研鑽が必要です。

訪日外国人（インバウンド）向け「外貨両替機」のご紹介

「オウ！ ワタシ ニホンエンガ タリマセン。 ドウシマショウ！」

最近、多くの外国人が日本を訪れるようになった。自国を出発するとき、通貨を「日本円」に両替してくるが、買い物が増えたり、食べ過ぎたり、観光し過ぎたりして、手持ちの「円」が足りなくなることがある。そういった時に、手持ちの通貨を「円」に両替してくれるところがなかなか見当たらない。

そこでこの「外貨両替機」をホテルやコンビニなどの店先において置くと、手軽に両替が出来るので便利だ。

かつては銀行以外では、両替は出来なかったが、現在では、規制緩和でどこでも出来る。

まだ出回っていないが、便利なので、訪日外国人に喜ばれている。これからはドンドン設置が期待できる。

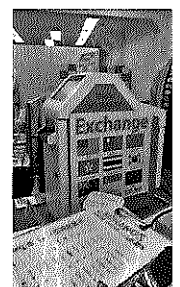
タイプは2通りあり、1つは外貨（紙幣）を入れると、「円」（紙幣、硬貨）が出てくるATMに似たタイプだ。もう1つは外貨を入れると、伝票が出てきて、これをレジに渡すと「円」に換えてくれるコンパクトタイプ。為替レートもその日、その日のレートになっている。

120ヶ国語の紙幣を自動認識し、ドルや元を始め、最大12通貨を選択できる。操作画面は、日本語、英語、中国語、韓国語の4ヶ国語で表示されているので心配ない。偽札はハジクし、そのまま通しても、会社が保障してくれる。

（メーカー代理店：株式会社シンカネット）

今、この機械を店先などに置いてくれるところを探している。今がチャンス！

（詳しくは株式会社セールスレップコラボにお問い合わせ下さい）



写真説明

上段 自動外貨両替機
下段 外貨両替端末機

MAIL: horibe@salesrep-co.com FAX: 06-6262-9882
株式会社セールスレップコラボ 代表取締役 堀部武司

～VEC関西より～

・あと一息で春爛漫、桜前線が南から北へと日本列島を横断します。長かった冬から春。野山の新芽が緑に輝き、夏への準備期間として華やかな、何となく浮き浮きの季節です。桜が咲けば日頃の鬱憤を忘れ、わが身を花の中に横たえ咲き誇る花を通して青空を眺めてみようかと待っています。きっといいアイデアも浮かぶかも・・・（本田）

・四天王寺近辺に行く機会があり、久しぶりに参道を歩いて来ました。ちょうどお彼岸だったので老若男女で賑わっていました。お彼岸の季節は春には牡丹の花、「ぼた餅」、秋には萩の花、「おはぎ」季節により名前が変わる・・・日本の風情を感じますね。私は四天王寺で有名な釣鐘饅頭を買って帰りました♪（藤本）

・3月1日を皮切りに2018年度卒業予定の大学生の就職の企業説明会がはじまり交通機関には足取りも早い就活スタイルの男女の学生さんの姿をよく見

かけます。毎年この光景をみて思うことは自分の就活の時どんな事を考えながら色々な企業に説明会に参加していたんだろうかと自分と置き換え懐かしくもあります。「自分らしさ」をモットーに頑張っていたのかな？（濱本）

・昭和6年生まれの下條様（VEC理事・日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社 名誉会長）は現在も多方面においてご活躍中で生涯現役そのものがあります。日経新聞ご出身の坂川様、大和銀行（現・りそな）ご出身の大江様からは長年の業界ご経験から貴重なメッセージを頂きました。インバウンドの増加により外貨両替機も活躍するかもしれません。新しいビジネスに期待します。（澤村）

<交流会の予定>

平成29年5月29日（月） 柳野国際特許事務所 弁理士 柳野 嘉秀 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293



～株式会社アイニー 代表取締役 藤井美佳穂様から 女性の起業や経営についてお伺いしました

不動産関係のビジネスでは比較的珍しい女性経営者としてご活躍中の株式会社アイニー 代表取締役 藤井美佳穂様からご創業の動機や今後の夢などについてお伺いしました。益々のご発展と個人や社会への貢献を大いに期待いたしております。

Q：現在の主な業務や業界の動向などをお教え願えませんか？

A：現在、不動産に関する業務を幅広く扱っていますが不動産仲介業においては海外との取引も多くなってきており今後積極的に取り組んでいきたいと考えております。国内では東京の需要が多い中、我が社は建築やリフォームでもなるべくコストのかからない様にきめ細やかな女性目線で対応し信頼関係と末永いお付き合いを目指しております。そしてお客様からの口コミによる取引も増加しておりまして当社が評価を得ているのではないかと考えております。

Q：約7年前に設立されましたがどのような動機で創業されましたか？

A：会社を設立するまでは不動産関係で勤めており、自分の理想を実現することを目指し起業しました。注文住宅が建売住宅に近いお手頃な価格にならないのか、そしてお客様のニーズを理解できて、いつまでも信頼関係が続けられる不動産業をしたいというのが大きな夢でした。私の「やりたいこと」「好きなこと」が仕事につながり、やりがいを感じております。

Q：ベトナムにもオフィスをお持ちですが、どのような業務をなさっていますか？

A：起業と同時にベトナムオフィスも開設しました。元々ベトナムが大好きで知り合いもおりましたので頻りに往復しております。ベトナムでは不動産業はもとよりタオルの加工、コーヒー豆、ベトナムの石材販売など多角的に展開しております。

Q：これからの夢や女性の視点で経営される特色はどのようにお考えでございますか？

A：建物は新築から中古住宅に変換しつつある傾向の中、例えばリフォームの場合にDIYのサポートによる費用の低価格化など女性の感性を生かしたご提案をしていきたいと思っております。

何とんでも「仕事を遂行するには信頼関係が一番」と考えております。それ故我が社では社員には多様な資格を取得してもらいアドバイスやサービスを推進しております。今後もメンテナンスの充実などお客様を大切にしたい広がりのある、継続した関係による事業展開をしていきたいと思っております。

- ・本社所在地：〒564-0082 大阪府吹田市片山町1丁目12-7 片山ビル2F
- ・電話番号：06-6339-7788 ・FAX：06-6339-7733
- ・E-mail: info@ainy-h.com
- ・Web: www.ainy-h.com



藤井美佳穂 代表

インドでビジネスエリート達が起業する理由

2016年の5月より、インド・オフィスの立ち上げと調査のために南インドのバンガロールで活動しています。

実は私が初めてバンガロールに来たのは2001年、16年前のことになります。その頃のインドを知っている私としてはインドの発展のスピードは目を見張るばかりです。

現在、インドでは都心の人口は約2割、農村に5割の人口が住むと言われており、農村に住む5割がこの5年から10年の間に半分以上都市に移動すると言われています。

変化はあちらこちらで急激に起こっており、デリー、ムンバイ、バンガロールをはじめとする大都市では急増する人口に都市整備がついていけず、大気汚染や交通渋滞、水不足や停電といった問題が起こっています。インド政府は全国に100ヶ所以上のスマートシティを建設してこれらの問題に対応するモデルを作る政策を打ち出しており、大企業他、スタートアップ企業もこのスマートシティプロジェクトに参加していますが、都市整備には相当な努力が必要な状況です。

一方で、インドは理系人材を輩出する大学が数多くあり競争も非常に激しいですが、高学歴の人材の多くはアメリカやイギリス、ドイツ等に留学して、海外で働いた経験を持っています。従来はインドから海外へ移住していた高学歴者がインドの発展をチャンスと捉え、帰国して起業する、もしくは海外で起業したインド人がインド市場を対象にビジネスを始めるということが起こっています。英語を日常的に使うビジネスエリート達は世界中から情報収集し、外資系のコンサル会社や投資会社に働いている人はアメリカ並みの高給（年収1000万円以上）で働いた経験があり、インドの一般社員の年収が30～100万円程度であるのに比べて大きなギャップがあります。このような人達は、起業に対する抵抗感はなく自分で立ち上げたスタートアップ企業を数年でM&Aして大きなキャピタルゲインを得ることを目指しており、増加するスタートアップ企業を牽引しています。

私はスタートアップ企業の調査にあたって現地で独自のビジネスモデルを持ったスタートアップ企業にインタビューをしています。その中で2社が海外に本拠点を持ち、次のステップでインド市場に展開しようとしている起業家達でした。1社は、HireGradというイギリスで立ち上げた新卒採用プラットフォームを提供する会社で、インド人とイギリス人の共同創業者が起業したスタートアップ企業です。もう1社は、ZingoHubというクラウドファンディングを提供する会社で、インド人とシンガポール人の共同創業者が立ち上げました。どちらもインド市場に注目しており、今後インドでの展開を拡大させていこうとしています。

※インタビュー記事は、Future Venture JAPANに掲載されますのでご参照ください。⇒ <http://fvjpn.com>

このようにインド市場の成長に世界中から注目が集まる理由は、2040年にはアメリカを抜いて中国に次ぐ世界第二位の購買力を持つ国になると言われており（PwC調査による）、現在の混沌とした問題を解決した後に大きな市場があることが明らかであるからです。インドの若者たちはこの変化を肌で感じながら毎日興奮してスタートアップ企業を運営しており、この変化の渦の中のことを私自身大変刺激的と感じています。

フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 インド・オフィス 阪口 史保

「日中の懸け橋」という想いで出版

1月14日に新潮社様より「中国人観光客の財布を開く80の方法」という書籍を出版致しました。私は講師業をしていて普段から「話す」ということで伝えることをしていますが、書面に残しておくことも大切だと思い、執筆を致しました。中国人観光客の「爆買い」は終わりつつあります。実際、2016年の一人当たりの消費額は前年比-18.4%と減少しました。しかし、来日客数は逆に27.6%の伸び率となっています。これは、彼らが日本に求める内容が変化してきていることを物語っています。

「爆買い」全盛期には放っておいてもなんでも売れました。しかし、これからは態勢を整え彼らのニーズを満たすものを提供していかなければ、お金を落とすくれません。それどころか嫌な思いをしり飽きられてしまうと、もう来なくなるかもしれません。訪日客の嗜好、習性・ニーズを知ったうえで、団体旅行から個人旅行へシフトしてきている形態に合わせた対応策を講じていくことが必要です。インバウンド事業は本当の意味でスタート地点に立ったばかりです。つまり、やり方次第ではこれからがチャンスなのです。

取材した内容を基に10年間の上海生活と15年にわたり中国人と係わってきた経験を事例として、分かりやすく繁盛戦略を中国ではめめたいとされる「8」にちなんで、80項目に取りまとめました。インバウンド事業関係の方には取り入れて頂きたい内容が満載です。また、インバウンド事業をされていない方でも、今では街に出ると中国人観光客と接することが日常茶飯事です。自由自在に行動をする個人旅行客が増えたとますます触れ合う機会が増えてきます。そんな時に、日本人から見て不思議に思える行動や困った行動も理由が分かれば、心の負担が軽減します。そして、友好的に係わることができると、楽しいと感じられるのではないのでしょうか。その一助になればという思いで、彼らの行動の理由や対処法なども掲載しております。中国人の全てを受け入れる必要はありません。しかし、この書籍が先ず彼らを知り接し方を見直すきっかけにして頂ければ幸いです。

すみれナレッジ 岡部佳子



「株式会社ベイルインテリア 金城貞美の インテリア収納からはじめる開運術」

空間に人が入ると住まいになります。その住まいを整えて設えるだけで不思議と気持ちが豊かになり、開運にもつながります。今回はその住まいの「顔」である玄関についてです。誰でも顔を洗うように、おうちの顔も整理収納とインテリアで幸せをよびこみましょう。

【お掃除で家の運気をあげる】

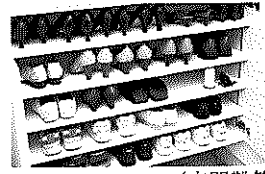
玄関が散らかっていると陰の気が満ちてきて、家全体の運気が下がるといわれています。日々のお掃除で家の運気をあげましょう。玄関のたたきに靴を何足も出しっぱなしにしていると、お家全体が乱雑なイメージになり、お掃除もしにくくなります。帰宅したら、靴底の汚れを落とし一晩たたきに出して乾燥させ、翌朝には下駄箱へ戻しておく習慣をつけておくとよいでしょう。きれいに行き届いた玄関は防犯にもつながります。家の周りが散らかっていると、家の中も散らかっているとされてしまいます。防犯の面からみても、玄関をキレイにしておくことは大切なポイントです！

【玄関は以外と物が多い】

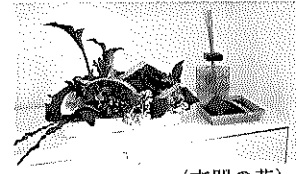
靴・傘・アウトドアグッズ・レジャー用品・子供の外遊びおもちゃ…玄関に収納するものは意外と沢山あります。玄関にあるものを一旦すべて取り出し、「要」「不要」を判断しましょう。本当に必要なものだけを選び取り、取り出しやすく収納しましょう。

【玄関のインテリア】

玄関の片づけ、お掃除ができたなら花やグリーンを飾ってみましょう。アロマなど香りを楽しんだり、季節の設えでお客様を迎える・・・など、玄関を素敵に演出することでお客様への印象もぐっと良くなり、家族も毎日の生活を楽しむことができるでしょう。インテリアのポイントは「明るい・きれい・よい香り」です。明るい…光をたくさん取り入れることができるように扉やガラス部分はきれいに磨きあげましょう。照明のシェードやカバーをきれいにお掃除するだけでも明るさが変わってきますよ。きれい…玄関に是非おきたいアイテムは「お花」です。きれいなものを飾っているだけで幸せな気持ちになります。季節の生花がベストですが、手入れが大変・・・と思われる方はアートフラワーも活用してみましょう。香り…においは慣れてしまうとわからなくなってきてしまいます。お好きな香りを取り入れてみてください。幸せは玄関から入ってきます。整理収納とインテリアで家の運気をあげましょう。



(玄関靴箱)



(玄関の花)

今月号より 金城貞美 代表のインテリア・収納に関する「情報便り」がはじまります。金城代表は近畿経済産業局主催・LED関西ファイナリストの女性起業家のお一人です。これから季節ごとに発信して頂く予定です。皆様乞うご期待!!

株式会社ベイルインテリア 代表取締役 金城 貞美

私の故郷 モンゴル (バヤン・ウルギー)

私は学校法人エール学園の国際コミュニケーション学科に留学しているアイボラト・アイヌルと申します。

私がモンゴルから異文化の国である日本に来て早や2年が経ちました。今回は私の故郷についてご紹介したいと思います。私の生まれ育ちはバヤン・ウルギー市です。ウルギー市は中央アジアの海支流がない最大の河川ホブド川や雄大な高い山々に囲まれた美しい自然の町です。

ウルギー市は1940年にホブド県から分離し設立されました。1961年に県都をウルギー市と名付け、1972年にウルギー市の面積を10,092ヘクタールと確定しました。ウルギー市の人口は32,000人ですがそのうちの9割を占めているカザフ族は130年前からモンゴルの西部に移住して来たと言われてます。イスラム教のカザフ族と少数のウイグル、ウズベク、タタル民族がいますが、祭司教(シャマニズム)のトバ族と仏教のウリアンハイ族やドゥロブド族もいます。

ウルギー市はモンゴル国の最も西部に位置するバヤン・ウルギー県の県都です。バヤン・ウルギー市は首都ウランバートルから西へ1,760kmのアルタイ山脈の北麓に位置しています。南は中国・新疆ウイグル自治区、北はロシア・アルタイ共和国と国境を接しています。この近接諸国を通じてアジアやヨーロッパとの交流をしています。バヤン・ウルギー市には13郡、90町、1村があり県と郡の行政機関は4年ごとに総選挙で決める制度になっています。私の故郷では山頂の氷河から流れ出した水が作った非常に澄んだたくさんの美しい湖や川が各地にあります。その数は450本の川、大小70の湖になっています。Indert, Biluuなどの温泉や原水は有名です。Yolt, Bugatiin hatuu, Baga turgen, Ayushiin ehen, Dakilbain 滝など美しい自然の風景地があります。その他にバヤン・ウルギー県に位置するアルタイ山脈、タバン・ボグド山群などの保護地は2011年に世界遺産に登録されました。

多種類の植物や薬用植物が植えていて、他にも300種類の脊椎動物が存在している中で11種の爬虫類と8種の魚類が記録されています。世界絶滅危惧種になっているアルタイアルガリ、アイベックス、ユキヒョウ、オオヤマネコ、アジアビーバー、レッドディア、リス等が生存しています。

またカザフ民族の特徴は習慣及び伝統として独自の歴史的並びに文化的な多様性を持つ民族と言われ、現在でも伝統文化や生活様式を守りながら暮らしている事は世界中で注目を集めています。昔からカザフ民族は狩猟のために鷹や鷲を飼育しています。またチョウゲンボウ(ハヤブサの一種)やファルコン(ハヤブサ)と言った猛禽類も飼って、キツネや狼やアイベックス(ヤギの一種)等を狩猟してきた習慣があります。現在、鷹を使って狩猟する人は400人位がいます。

カザフ民族の鷹を使う狩猟は2010年に世界文化遺産に登録されました。また中央アジアで広く祝われる「ナウルーズ」という旧正月を私の故郷でも祝います。このナウルーズと言われる旧正月(3月22日)は太陽暦の一種(イラン暦)であり、中央アジアで用いられています。この日は色々なことを楽しみます。例えば馬を用いた競技クズコアル、狼の皮を剥ぎ取って作った袋を馬で奪い合うゲーム、カザフ相撲大会、石を捨てる競技テンゲイルなどをします。

最後に気候についてですが、海から遠く離れた高山脈に囲まれた地にあるバヤン・ウルギー県は乾燥した涼しい気候でありながら、冬は長くても雪が少ないため厳しい寒さがなくて、夏は短くても過ごしやすい地域です。しかし年間を通して気候が変わりやすいため昼と夜の気温差は5~10℃になります。

また平均気温は冬はマイナス20-25℃、夏は15-20℃です。私の案内は以上ですが、皆様興味をお持ちになりましたらぜひモンゴルへお越しください。まだまだ紹介したいことがいっぱいありますし、遊べるところや見どころもたくさんありますので是非一度遊びに来てください!

写真: 万年雪に覆われたアルタイタバンボグド山頂(海拔4374m) モンゴルからの留学生 アイボラト・アイヌル



~VEC関西より~

・寒かった冬も終わり、桜も散って緑が輝いています。これから一番いい季節です。私は毎朝、近くの疎水を歩いています。速足で少しでも大股歩きを心掛け、大手を振って歩きます。春眠もいいですが、緑の中を歩きましょう。とっても気持ちいいですよ! 健康と幸運が舞い込むこと請け負います。(本田)

・VECでスタッフとして働いておりました、最近感じることは交流会の参加者が年々増えている事です。(嬉しい悲鳴です!) 初めて交流会に参加される方にも皆様暖かく受け入れて下さる・・・スタッフとして皆様に感謝の気持ちで一杯になります。本当に皆様有難うございます!(藤本)

・先月、ご近所の方から庭に生えている桜の木の枝を何本か頂きました。大きめの花瓶に挿しておけばいいよ・・・と言われ家の花瓶にさして玄関へ置いておくと少し時間はかかりましたが見事に全て満開になりました。

玄関の扉を開けるとそこには満開の桜・・・家の中での桜もなかなかのものです。(濱本)

・5月号は風薫る季節に相応しくすべて女性からご寄稿頂きましたので「女性活躍推進法」がてんこもりでも見える化となって来ました。そして5名の方々はそれぞれの分野で大活躍されています! 就業者に占める女性の割合は40%強らしいのですが女性管理比率を11%から目標である30%の達成を期待します。(澤村)

<交流会の予定>

平成29年6月16日(金) 近畿経済産業局 創業・経営支援課長 大西 逸朗 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部 〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階 TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293



～ナニワ鏡工業株式会社 代表取締役社長谷村公二様から

『経営・経済・関西活性化など』について伺いました～

2017年がスタートして早くも6ヶ月が経過しましたが、経済は内外とも不確実性が続いていると報道されています。このような時期に80年近い業歴と勉強家であり博識者のナニワ鏡工業株式会社 代表取締役社長 谷村公二様からお伺い致しました。

- Q. 最近の我が国は人口減少や働き方改革、AI、2020年のオリンピック・パラリンピック等々、様々な要因を抱えておりますが経営の舵取りはどのようにお考えでしょうか。
- A. ・今回、VEC事務局様より与えられた4項目のQの内、自社のQは述べる事は出来ても他の3項目のQは学者か経営の神様でないに述べることが出来ないような内容になっています。なぜなら私自身戦後の高度成長期の大量生産、大量消費の70年間を経験しており、人口減少のシュリンク経済下の経験がなく、此の部分については非才浅学の中小企業経営者の能力の域を超えており、想像・空像・予想でしか述べる事は出来ない事を前以って御理解頂きたいと思えます。
- ・我が国の経済は2020年のオリンピック迄は現状の横這いで進むと思われませんが、オリンピック終了後は減少傾向に進むと思われれます。その事を予測して今から手を打つ時期に来ています。今年は激動の2017年経営環境はこれ迄続いてきた約80年にも及ぶ戦後で最も激しい変貌が予想されています。トランプ大統領の登場は環境・状況・対応を大変貌させています。特に米国への依存が大きい日本やアジアの多くの国々にとって、その判断も対応も非常に難しい。経営者にとってこれからの事業の興亡は経営者自身がとる戦略如何にかかっています。間違いのない判断と対応が求められます。日本は数々の問題を抱えています。65年も続いてきた日米安保条約は変貌します。金がかかりすぎるからです。(安全と水はタダではなかった)防衛は原則、自国は自分で守ることが当然です。これ迄多くの人命の犠牲は米国が負ってきました。これは日本の甘えです。次に自由貿易体勢は世界が1つになることが最終的な目標ですが、米国はその前進のTPPに対しても今は賛成ではありません。不振の米国への輸出攻勢が続くからです。少し反省し世界が抱えている問題を捉え直すことが必要です。日本は多くの問題を抱えています。長期的には人口構成上の老人問題と対応、オリンピックの準備、首都での築地と豊洲の問題、人手不足、金融状況、事業の新マーケットの変化、労働時間の長短、住宅環境の変化など、数々の変貌を正しく捉え、対応することが経営にとって難しさを増す時期となりました。繁栄と幸福のために持てる全力を駆使して行きたい2017年の年のスタートと思っています。
- Q. 関西は2025年の万博誘致やIR(カジノ)、インバウンド、スポーツ産業振興、ベンチャー育成など多岐に亘る経済活性化が提唱されています。我々の段階でどのように推進すべきでしょうか。
- A. ・ローマ帝国は何故滅んだのか?それはパンとサーカスと言われています。パンは社会福祉、サーカスは娯楽と言われています。万博・IR(カジノ)、スポーツ産業振興などの消費産業では真の経済成長につながるのでしょうか?2020年のオリンピックの後のとりあえずのつなぎに万博をとの思いは解らないではないですが。万博誘致の場所も大阪湾周辺となると。発生確率25年以内に88%と言われている南海トラフのリスク回避は折り込み済みですか?100万人乗船できるノアの方舟でも造らないと駄目ではないでしょうか?南海トラフ地震は外国人も含め公知の情報で津波地震です。地震発生後大阪湾に津波の到達時間は1～2時間後と言われています。
- ・2017年1月に大阪商工会議所など関西の18の商工会議所で構成する「オープンイノベーション推進研究会」は中堅・中小製造業の会員企業を対象に行った「製造業における新事業展開に関する調査」結果をこのほど発表した。それによると回答企業の7割弱が2010年以降に新事業を展開または検討しており、回答企業の約3割強が新事業展開の手法としてオープンイノベーションに関心を持ち活用し前向きであることが分かった。その課題として「有望事業の見極め」や「新事業を担う人材の確保」「新事業を開発する技術・ノウハウ不足」を指摘する企業が多く、社内の限られた資源で新事業に取り組むことの難しさが示された。(オープンイノベーションとは自社と外部の技術やアイデア、サービスなどを組み合わせ、革新的なビジネスモデルや製品・開発につなげる手法。新事業展開に有効として注目されている)
- ・現在、日本国に残っている基幹産業は家電産業と自動車産業と言っていますが、家電産業もシャープ・東芝・パナソニック含めおかしくなってきています。自動車産業もエンジンと言う内燃機関のコア技術を持つ自動車メーカーに第一次部品メーカー、アイシン精機・デンソー含め480社・第二次部品メーカー1万社・第三次部品メーカー5万社と言う垂直統合型のピラミッド構造で成り立っていますが此の所以は自動車1台当り部品の点数が10⁴で数万点の部品が使われており、此の組織が成り立っていると言われていたのですが今後、電気自動車が出現しますと部品点数が30～40点で済むため今迄のピラミッド構造が崩壊し水平分業型になると予測されています。トヨタ自動車は現在、日本人口の15%を雇用の創出に貢献していると言われていた。
- 米国テスラモーターズ (TESLA MOTORS) は2017年7月をめどに量産型電気自動車 (EV) 「モデル3」の生産を始めると2017年3月29日(水)日経新聞の夕刊に掲載されました。量産のための資金調達に中国ネットサービス大手の騰訊控股(テンセント)から5%(1960億円)の出資を受けたと公表した。
- ・以前に会合で経産省の方とお会いした時に此の10年以内に自動車産業に匹敵する基幹産業が日本国内に生れますか?と質問した事が有ります。その担当官は無いとお答えになりました。ならば国内経済を今後支えるのはベンチャーしか存在しないのではないのでしょうか?ベンチャーは小さな山だけそれを沢山育て、数で稼ぐしか方法がないのではないかと今後そのためにもVECの役割は貴重な存在で経産省及び関係省庁にも支援を要請してベンチャーを育成しなければ日本の未来は無いかも知れません。
- Q. 貴社のご創業は1940年と80年近い業歴の長寿企業であります。その秘訣や要因は何でありますか。
- A. ・中小企業の経営には秘訣や秘策は有りませんが、存続の危機は有りました。それは企業の寿命30年と言われる創業33年頃の昭和48年11月の第一次オイルショックの余波を受け、素材産業の板ガラスメーカーも数千人規模の人員整理の時代であり、拡大鏡の輸出向けの取引先も倒産・廃業で壊滅状態と成り大変な時代でした。又、内需向けの市場は家具業界が主な取引先でしたが昭和51年に家具業界が構造不況業種に認定された年から取引先が倒産・廃業に追いやられ、昭和52年～54年の3年間は不良債権処理に追われた時代でしたが幸いにして昭和45年頃より住宅産業・住設産業が出現され始めた頃より洗面化粧台用鏡・ユニットバス用鏡・トイレ用鏡等の住宅分野への需要が昭和50年頃より徐々に伸び始め製造設備にも数億円投入し需要構造の変化に対応し業態の変身が出来た事によりお陰様で現在まで存続確率30%内に生かされたように思います。
- ・しかしこれからは少子高齢化、人口減少による新築住宅着工戸数の減少(成長期には年間180万戸実績・2015年90万戸実績・2025年予測60万戸で成長期時代の1/3と言われていた)内需のパイのシュリンク傾向の中で企業生命70年から100年に行く迄の存続確率1.7%と言われており、子・孫代達の時代のために何をしておいてやるか?暗中模索の今日この頃である。



<裏面に続く>

Q. VECは昭和50年(1975年)に創立の公的ベンチャー支援機関として業務を行なってきましたが、これから起業される方や起業後のあり方につきましてアドバイスをお願い致します。

A. ・人口減少で世の中が変わる、21世紀の日本は間違いなく人口減少社会に突入しています。人口が減れば衣食住などの需要が減り労働力も減りますからこのまま放っておけば需給両面から経済活動が縮小しGDP(国内総生産)も落ちていく可能性が強まります。1990年代に人口増加率が低下しただけで個人消費が伸び悩み、地価上昇神話が崩れて、バブル経済が崩壊しました。今後は人口そのものが減るのですから、その影響はもっと大きなものになるでしょう。「少子・高齢化」などという狭い次元をはるかに超えて世の中全体が従来とは別の方向に向かっていく事になります。つまり21世紀の日本は19～20世紀のような成長・拡大型の社会から次第に飽和・濃縮型の社会へ移行していく事になります。そうすると約200年間続いてきた右肩あがり社会の常識は次第に通用しなくなり、新たな知恵や戦略が求められるようになります。つまり個人の生き方は勿論、企業の経営も国家の舵取りもすべて根本から見直しを迫られる事になるでしょう。今回の人口減少もまた、人口容量に突き当たったからです。1億2,700万人の人口容量は工業製品を輸出して食糧・資源を輸入するという加工貿易国家の成果です。これが可能だったのは一部の工業先進国が高価な工業製品を生産し、大半の発展途上国が廉価な農業を生産するという国際構造があったからです。ところが21世紀は発展途上国の多くが工業化して「工業製品安・農産品高」の傾向が強まっています。となると家電や自動車を買って大量の食糧を買うという構造自体が無理になってきます。これこそ、私達の頭上にはしかかっている人口容量の壁です。こうした壁に突き当たったため現在の日本人口は過去の減少期と同じように減り始めているのです。以上のようなことから日本国内の需要のバイがシュリンクします。故に日本国内でのビジネスモデルは従来にはない根元的な見直しが必要になります。それとは逆に東南アジア・アセアン地域の発展途上国は今迄のドイツ国・日本国の物真似をするだけで今後50年間成長すると言われていています。拡大・発展のビジネスを考えるならこの地域の親日派の国々とコラボしてビジネスをするのが好ましいと思われれます。日本国でベンチャーを考えるのなら少数民族人口800万人(推定)のイスラエル国のように知的財産の分野を選び付加価値を生むが雇用の創出を生まない方向を目指すのが好ましいように思われる。なぜなら日本国内に生産する労働人口が減少するから。

富良野のワインとメロン

北海道のワインと言えば、余市や十勝のワインが有名ですが、富良野では、富良野市ぶどう果樹研究所の「ふらのワイン」が1975年に、富良野スキー国体で試作ワイン提供されました。本稿では、従兄弟が人参農家からワイナリーを創った話と弟が栽培してきた「ふらのメロン」について紹介させていただきます。

まず、従兄弟の多田繁夫は、十勝岳連峰の麓で玉ねぎを中心に栽培していました。人参嫌いな子供でも飲めるニンジンジュースを加工販売する第6次産業化を進めています。ペンション経営そして、食育の啓蒙で、修学旅行生の農業体験支援や大学生の農業インターンシップ、さらに、十数年前からブドウの栽培を始め、委託醸造で北限のピノ・ノワールを販売していました。ワイン醸造家で有名なブルース・ガットラヴさん(合同会社10Rワイナリー代表社員)のところで、加工して頂いていましたが、昨年の秋、本格的にワイン事業に乗り出すことになりました。

多くの方のクラウドファンディングのご協力により、醸造設備をフランスやスロベニアから調達して、めでたくこの夏には、自前のワイン(ピノ・ノワール、シャルドネ、メルロ)が世に出る予定です。多田ワイナリーは、北海道で33番目のワイナリーだそうです。なお、奈良の葛城市の梅乃宿の蔵開きで出逢った酒食市場エポックの藤井善徳さんが、わざわざ北海道まで現地を訪問され、関西で唯一多田ワインを扱っていただいています。

次に、弟の工藤次郎は、稲作農家から、肉牛の飼育などから、メロンの栽培に転換して、夫婦中心で長さが100mのビニールハウスが30棟で約数万個のメロンを作っていました。しかし、還暦も過ぎ体力的にきつくなってきたようで、規模を縮小しています。また、富良野スイーツ「トアルージュ」は、5月で10周年になりますが、残念ながら、パテシエさんの寿退社と姪の子育てで残念ながら閉店となることになりました。

北海道メロンといえば、「夕張メロン」ですが、富良野メロンの方が3度ぐらい糖度が高く、果肉が軟質な夕張に対し富良野はきめ細やかで、しっかりした果肉で舌触りがよく、日持ちが良いが、夕張よりブランドが低いのでお値段は控えめでお得なメロンと弟が言っています。

ところで、富良野メロンの普及のために、FaceBookで毎日発信されている寺坂祐一さんがいます。彼は、18歳で1991年にメロン作りを開始され、感動野菜産直農家である寺坂農園²⁾を運営され、2015年「攻めのIT経営中小企業百選」を授賞された将来有望な方ですので、小生は、毎日、FaceBookで応援しています。

最後に、ラベンダーで有名な「ファーム富田」さんが運営されている「ラベンダーイースト」の広大なラベンダー畑があり、その広さは国内最大規模の14ヘクタール、そこには9万株のラベンダーが植えられています³⁾。その横には、弟らの嫁さん5人が経営しているファームレストラン「あぜ道より道」があり、その野菜カレーは絶品です。この夏、お時間があれば、是非、上富良野(ラベンダーの発祥地)に来て頂ければ幸いです。

引用資料 1) 多田ワイナリー <http://tada-wine.com/> 2) 寺坂 祐一著「直販・通販で稼ぐ!年商1億円農家」同文館出版

3) ラベンダーイースト <http://www.farm-tomita.co.jp/east/>

工藤 英男(太成学院大学)

<トピックス>

◆kokoyo(代表 味岡由恵)が“ご縁の空間”をオープンされました!

この度地下鉄南森町から徒歩1分の好立地にあるお洒落で綺麗な貸スペースをオープンされました。

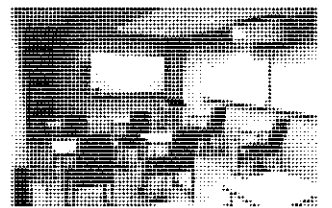
各種教室・会議・セミナーをはじめ「起業のご縁」「ITのご縁」「心のご縁」など幅広いサービスを提供したいという思いから開設されましたので皆様のご利用を願っています。利用方法について詳しくはメールか電話でお問い合わせ下さい。

<連絡先>

ご縁プランナー 代表 味岡 由恵

・住所:〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-11 ステップイン南森町303号

・TEL:090-4900-0318 ・mail:ajioka@kokoyo.jp ・Web:http://www.kokoyo.jp



～VEC関西より～

・谷村社長の思いは経営に携わっている者として共感いたします。新緑から初夏を迎え、富良野など自然の中にとっぷりと浸り、新しい発想を養いたいものです。(本田)

・最近のTVは健康に関する番組が多くなりましたね。私もつつい見てもありますが・・・芸能人も番組で検査をして悪いところが見つかるケースがよくあります。何の症状もなければ検査はしない人達が多いですね。お忙しい皆様、定期健診は必要です!(藤本)

・5月16日(火)プレミアムクラブは(株)バイルインテリア 金城貞美代表をスピーカーとしてお迎えしました。「インテリア収納からはじめる開運術」をテーマにインテリアコーディネーターとして幅広くご活躍されている金城代表のお話しは女性として本当に納得、感心しこれから

は金城代表から学んだことを思いだし毎日の少しずつの心がけを忘れずに、即翌日から玄関のお掃除・整頓をイチから始めました。(濱本)

・勉強家で博識者の谷村社長からは日頃我々に何かとご指導頂いており、ご多忙の中今回その内容を要約頂きました。味岡様が新しい空間ビジネスを開始されており、ご発展を期待しております。(澤村)

<交流会の予定>

7月の定例交流会はございません。

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293



～VEC創立月にあたって～

VEC創立42周年にあたってVECが財団法人に移行後、今年で42年になるそうです。

当時私は未だ若干35歳、まだベンチャーという言葉さえ知らないとき、VEC「研究開発型企業育成センター」の役割として本田技研の本田宗一郎さんや、三菱総研の牧野昇先生も、「日本もこれから研究開発型の新しい企業を育てていかなければいけない」といわれ、通商産業省(現経済産業省)も引き込み、中小企業も研究開発をもっと活発に行い、新しい商品を開発しなければ、海外企業に後れを取るとの危機意識から、中小企業を対象に、研究開発費の債務保証制度ができました。

私の会社も当時、風洞などの試験装置を製造していました。その研究の中で、風速計をたくさん風の流れの中に装着し、風の流れ分布を一度に計測できるような風速計が必要と、その開発資金として6千万円の債務保証を申請しました。

当時、風速計といえば、白金の細線に電圧をかけ、風により奪われた熱量を計測し、風速を推理する熱線式風速計でした。

欠陥は流れがちょうど細線に垂直に当たればいいが、斜めに当たると熱の奪われ方が変わり、誤差になってしまう。その為に、先の丸いセンサが必要とのことで半導体のゲルマニウムの単結晶を使い、熱特性のばらつきが少ないセンサを開発し、沢山並べてそれぞれの各部の風速強度を測れば、流れ全体の解明が可能というアイデアです。

その債務保証を認めるかどうかの審査会の時、牧野先生は、「半導体はそんなに均一なものではないよ」と言われた。私は当時自信があったので、「半導体は温度が上がると比抵抗は有る値に収斂するのをご存じないのかな？」と高をくくっていた。

しかしこの時は本田宗一郎さんの鶴の一言で決まった。

「この人は一生懸命だから上手く行くんじゃないの？」

その一言で、わが社に対する債務保証が決定しました。

でもさすが、牧野昇先生。おっしゃる通りバラつきが多く、11年間ほんとに苦勞した。でも今では解決し、センサの製造会社、トニック株式会社としてセンサの販売をしています。

銀行は技術のことがわからないので、第三者のお墨付きで、その後の資金繰りはとってもスムーズに行きました。

現在のVECは研究開発型企業育成センターの名称が財団に変わった名前です。VECも積極的にベンチャーを育成できるシステムができるといいですね。

現在のVECはご存知の通り、ベンチャー白書やベンチャーの交流会を中心に、調査や、統計の仕事をしています。

関西を中心にやっている交流会は最近参加人数も年々増えてきていて、今では50人を超える時もあります。やはり、できた商品を広く販売するには、ネットワークが必要です。ベンチャーが人を介して、製品の特長を世に広めることです。飛び込みで対象企業に売込みに行ってもなかなか相手にしてくれません。自社製品の応援団をVEC交流会で作ってください。出来るだけお役に立てたいと思っています。

本田工業株式会社 会長
一財) VEC理事 関西支部長
本田 英行

ZENに興味を持ったスティーブ・ジョブズと稲盛和夫

ジョブズは当時のヒッピー世代の影響を受けてインドを放浪したり東洋の神秘や禅に大いに興味を示していた。1975年曹洞宗師家の知野弘文老師が主宰されていたサンフランシスコ郊外のハイク禅堂に19歳の変った青年が参禅に現れたが、これが後の大実業家ジョブズで、彼の禅の師匠との邂逅であった。

その後彼は「知野老師との出会いに深く感動し、なるべく長い時間を彼と過ごすようになっていた」と夜中に夫人に追い出されるまで老師のもとにいたそうである。

彼は老師の教えに深く傾倒し永平寺へ行って出家も考えたが「事業の世界で仕事をしつつ、スピリチュアルな世界とつながりを保つことが可能なことから、出家はやめた方がよい」「ここにはないものは永平寺にいてもない」と言われ出家を断念した。彼が36歳で結婚するときの司式を知野老師に依頼したり、知野老師の家族をジョブズのセカンドハウスに留守番と管理をかねて住んでもらっていた。しかし知野老師が2002年スイスで惜しくも不慮の事故でなくなりましたが、その知野老師の葬儀の司式をしたのが、秋葉玄吾老師(当時曹洞宗北米総監)である。その時に自分の死期が近いと感じたジョブズは人を通して、「自分の葬式も同様に秋葉老師にお願いしたい」と言われそれが実施された。私はたまたま知野、秋葉両老師には親炙に浴してきたが、ジョブズのあまり知られない不思議な日本とのご縁を感じる。

稲盛氏も13歳の時に肺浸潤を患っていたときに谷口雅春の『生命の実相』をむさぶるように読んだといわれ、幼少期からスピリチュアルなマインドが備わっていた。京セラを始めて知人から西片擔雪老師(元妙心寺派管長)され、老師に指導を受けることになった。創業25年目の時に製品が薬事法違反で1か月の操業停止を受け悩んでいた時に、老師に相談すると「災難に逢う時は過去に作った業が消えることで、それは喜ぶべきことだ。白隠禪師も積みし無量の罪滅ぶと言っている」と思いもよらないことを言われ、深く悟ることがあった。

かねてからの考えにより、65歳になった時に思い切って老師に相談し得度を受けることにした。それで胃癌の術後にかかわらず大接心という厳しい修行を受け、衣に網代笠、素足で草履という雲水姿で信徒の家を廻る托鉢も行い、老師から「大和」と言う僧名も授与された。

彼はこの時の托鉢で年配の婦人から「大変でしょうパンでも買いなさいと百円玉を恵んでくれた」ことが忘れられないと言っている。

日米を代表する2人の大実業家が、その成功の陰にZENに傾倒していたことは、ビジネスパーソンにとっていかに精神的支柱が大事かを示している。

太成学院大学 経営学部長 教授 釣島平三郎

～株式会社アトラステクノサービス&阪南大学石井ゼミとの
産学連携による製品開発への取り組み～

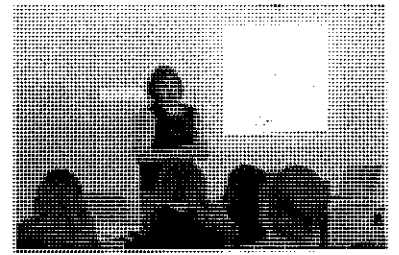
阪南大学あべのハルカスキャンパスに於いて

5月26日、ろ過装置・真空フライヤーの機械メーカーの代表としてご活躍されている株式会社アトラステクノサービスの鯛かおる氏が、阪南大学経済学部石井ゼミ2・3年生(36名)に「ものづくりで感動を」をテーマに講演されました。

今年で20周年を迎えられる同社は、「ものづくり一筋」でその確固たる地歩を築かれ、現在農工商連携による6次産業化事業にも積極的に参画されて取り組まれ、循環型農業の保全・振興を理念に地産地消による野菜を活用した真空フライチップスでマーケットを創造・拡大されて注目を浴びています。

一方、連携先の石井ゼミでは、毎年東南アジアを中心に、特にタイ・プーケットにおいて、海外フィールドワークを絡めたボランティア活動として、①地球温暖化対策の一環としてのマングローブ植樹、②スマトラ沖地震の津波で被災した孤児達との多彩な交流プログラムを実施されておられます。

今回は、大学生には「ものづくり」中小企業の実態や役割をはじめ、真空フライヤー技術による資源有効利用による6次産業化の取り組みと意義への理解を深めながら、「マングローブは食べられるのか?」をメインテーマに、鯛代表の指導と支援のもとで、マングローブの葉や野菜・熱帯果実(マンゴーやパパイヤ等)の調達からチップス製作実習のプロセスに取り組む予定にしております。なお、製作されたチップスは、鯛代表の温かい配慮で、9月にボランティア活動で訪問する孤児院の子供たちにプレゼント(寄贈)することになっております。第一段階は、タイに行く9月初旬を目標に、それまでの期間、8月に実施される工場での実地研修や各種の勉強会など、石井ゼミの学生さん達にとっても、暑くて熱い夏になることでしょう。



関西支部 事務局 濱本妙子

「お茶って、めっちゃ 楽しい!～お茶から広がる世界」

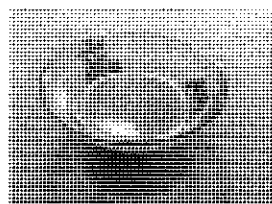
“一碗(いちわん)からピースフルネス(平和)を” 茶道裏千家十五代お家元は、ご自身が戦争中、海軍にいらした経験からこの言葉を胸にお茶を通して世界が平和になりますように!と戦後50年以上、国内のみならず、世界にお茶を広めてこられました。私もお茶を通して“てんこもりからピースフルネスを”の思いで、茶道の楽しさ、魅力をお伝えできればと思います。さて、お茶は色々な作法があり、面倒だ・・と思われがちです。確かにたかがお茶をいただくだけなのに様々な作法があります。お茶が運ばれる、まず右隣の上座の方に「お相伴(しょうばん)させていただきます」左隣の連客の方に「お先に頂戴致します」お茶を点てて下さったご亭主に「お点前、頂戴致します」とご挨拶し“お茶がいただける!”いえ、まだなのです。

お茶碗を左手にのせ右手をそえて少しおしいただき、お茶碗を手前に回してやっとおいしいお茶がいただけます。この作法はお茶室ではすべての人は平等でお互いを尊重し合いお茶を楽しむことだ「相客(あいきゃく)に心せよ」という利休の教えによります。せっかくのお茶を楽しむ機会お互い気持ち良く時間を過ごすためのマナーと考えれば、自然に言葉をかけ合えるでしょう。いただく前にお茶碗を少しおしいただくのは“感謝”を表しお茶碗を回すのはお茶碗の正面(絵などが描かれてるところ)を敬い、遠慮して少し回したところからいただく“謙虚さ”の表れです。ビジネスや日常の場面でもお互いを思い、声をかけあうことでスムーズに気持ちよく、事が進むことがあるかと思えます。お茶でお稽古したことは、日常生活に活かせることが多々あるように思えます。

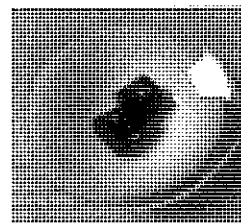
さて、「夏は涼しく、冬は暖かに」とお茶は季節感を大切にします。日本の四季の季節の移ろいを楽しみ、自然の恵みには感謝です。暑い夏のお茶室では目にも涼しげな趣向となります。この季節の茶室での「おじく」は『流水無間断(りゅうすいかんだんなし)』などさらさらと流れる水を感じさせるもの多くなります。「おじく」は禅語ですので様々な解釈がありますが“流れる水のように目標に向かってたゆまぬ努力を続けましょう”という意味になりますでしょうか。お茶碗は平らなものやガラスのものが使われ、お菓子はのどごしのよい水菓子が多くなります。暑いときに熱いものをいただくのもすっきりしますが、たまには点てたお茶に氷をおとしてオンザロックでいただくのもおいしいです。お抹茶はカテキンやビタミンCなどが多く含まれていて、夏バテの予防になります。

ぜひお茶を飲む機会を作ってください暑い夏を楽しみませんか?!

竹内 広実(裏千家 茶名:竹内 宗広)



「夏はガラスの器で涼やかに!」



銘は「流れ星」金粉で星を表現
お菓子は、お稽古でご一緒のお茶の友人 武隈典子さん製

～VEC関西より～

・交流会も会社も一緒に、一度始めると中々やめられない。また、やめてはいけない!長く続けるとそれだけネットワークがおおきくなり、売上なり人脈なりが増える。私も喜寿を迎えましたので、いずれはバトンタッチもあり得ます。変化は広がりです。引続きVECの発展に尽力して行きたいと思っています。(本田)

・大好きな桃の季節になったので、いつものように和歌山まで遠出して来ました。今年は気温の変化が大きかったようで出荷が少し遅れたようでしたが・・・桃販売の特設会場があり、一家族で何箱も買われていきます。(安くて美味しいので!)作った方の名前が記されており相手が見える安心感。四季それぞれの作物が味わえる日本ってやっぱりいいですね。(藤本)

・長い間、どうされているのかな?と気にはなってはおりながら私も日々の生活に流され時間が経つほど行動になかなか起こせない方がおられま

した。しかしあるきっかけで勇気をもって連絡してみると現在もお元気でおられ以前のまの会話ができた嬉しさと同時に、今後の私の勉強のためにと書籍や資料など送って頂ける約束と温かいエールまで頂戴しました。何故もっと早く行動をしなかったんだろうと自分を恥じました。今さらですが人とのつながりの大切さをより以上に痛感しました。(濱本)

・VECは創立以来この7月で42年目を迎え、ベンチャー支援をさらに推進して行きたいと思っています。海外経験の豊富な釣島教授、学生の為に行動で示されている石井教授、茶道からの学びについて竹内様から熱いメッセージを頂きました。(澤村)

<交流会の予定>
8月は例年どおりございません。



「国際通り」ふたたび

沖縄を訪問された方、テレビなどで沖縄特集等を視聴した方なら一度は訪れ・見聞きしたことがおありかと存じますが、県庁所在地の那覇市には「国際通り」という通りがあります。

その名の由来は、戦後にできた映画館（今はありませんが）の名前にちなんで、そう呼ばれておりますが、その成り立ちは当初、戦後の理不尽さとそれに対するウチナーンチュ（沖縄の人）の知恵の結集により発展していきました。“マチグラー”（沖縄方言、ここでは昔ながらの市場・商店を意味します）の一つで“県民の台所”と呼ばれている、通りから入った「牧志公設市場」や、デパートや映画館、ボウリング場などの娯楽施設が建ち並んでいたものの、その後の沖縄ブームによる知名度の高さから観光客が増え、次第に観光客向けの土産物、ホテル、飲食店が増えたことや、さらに県民性を紹介するTV番組で、「沖縄の飲みのシメはステーキ」の放送がきっかけで、最近は多くのステーキ店も建ち並び、かつての見慣れた風景は日々変わってきています。加えて2～3年前から、LCC航空や大型クルーズ船の寄港により、多くの海外からの訪問客も増え、修学旅行生から一般、各国からの訪問客で、朝から深夜まで多くの人で賑わい、まさに“国際”通り化しています。



そんな中、『地元民は行かない？ 沖縄・国際通り』のニュースを目にしました。報道によると、「那覇市民の日常生活に関する意識と市政運営に対する評価を把握・分析して、今後のまちづくりに反映させること」を目的に、二年毎に意識調査が実施され、今回は20代から70代の男女、約1,600名の回答（回収率30%）を得ました。その設問の中に、市街地活性化に関する質問として、“国際通り”と、その周辺の“マチグラー”の利用の頻度があり、国際通りは、「全く行かない20.0%」・「年1～2回37.0%」、マチグラーは、28.8%と38.3%との結果が出ています。私自身は4月から新しい職場に変わり、通勤は国際通りを利用するようになったので、現在は週5回以上利用しています。実際に地元の方が通るのを多くはお見かけしませんが、生まれも育ちも那覇で小学校から利用している立場から申しますと、通り周辺に職場や学校などがない方々にとっては、それほど足繁く通うのではなく、何か特別な時（時期）に行くような場所なので、今回の調査結果の私の感想は、「全く行かない」の割合は高いかもしれませんが、出向く頻度の傾向は以前からあまり変わっていない気がします。

確かにかつて地元の方がおしゃれをしていくようなデパートや、娯楽施設などの建物が、20世紀の終わりからここ10年ほどの間になくなってしまったこと、その代わりに大型の無料駐車場を持つ郊外型のショッピングモールが各地域で建ち始め、国際通りに行かなくても事足りるようになったため、地元の方々の歩く姿は減り、今や通りを利用するのは、そこで働く従業員やオーナーまでも県外出身者や外国の方々に変わり、地元の方々は、もっぱら道路（自動車通行）の利用になったのではないかと思います。

「もっと国際通りを利用してもらいたい」との思いから、毎週日曜日の午後に実施されるトランジットモール（歩行者天国）でのイベントや、以前ご紹介した“那覇大綱挽”の事前お披露目や、那覇マラソンのコースの一部に利用したりするなどのイベントが多数行われています。しかし先述のような状況下では地元の方々を呼び戻すにはなかなか難しいと思いますので、個人的には地元のライフスタイルや観光客のニーズに合わせて、月1～2回の休日には国際通りの道路の片側を駐車場にして、通り沿いのお店を利用してもらい、「気軽に停めてショッピング」と称した大胆なくらいのイベントを開催するなど、ちょっとひと工夫が必要かと思えます。

地元の方々との触れ合いも観光の楽しみの一つなのでから。

沖縄県在住 城間 保

気になる韓国の最新情報

私は現役時代の、タイガー魔法瓶(株)の職務で得た知識を活用して、韓国の某大手企業の「社員及び管理職研修」のセミナー講師をして十数年が経過いたしました。先般の韓国大統領選挙で下馬評通り最大野党「共に民主党」の文在寅（ムン・ジェイン）氏64歳が勝利をしました。

文氏の経済政策は興味深く、「政府主導で経済成長」を掲げています。具体的には、警察官・消防士・医療・保育等の公共機関職員を、51万4000人を採用する。さらに、公共機関で働く約30万人の間接雇用(派遣社員)を、正社員雇用に切り替える。財源は、歳入の自然増や予算の見直しに加え「大企業や高所得者層向けの増税」で補てんする。韓国での若年層の失業率が急増している。国際労働機関の調査では推定10%を超えている。大企業と中小企業の給与格差は2倍に達しています。相も変わらず財閥経済が続いているのです。

大統領選で、文氏を勝利に導いたのは、20代から40代の文氏支持率は、常に50%を上回っています。逆に、50代以上は朝鮮戦争の記憶もあり、北朝鮮に融和的な姿勢を見せる文氏に不信感を持っています。また、世界における外交面では、結果として韓国大統領の存在価値と言うのは薄いものです。挙句に、日本のメガバンクは莫大な資金を融資して、韓国企業の下支えをしています。

韓国のGDPは世界第11位で今後も高い経済成長が見込まれているアジアの経済大国です。リーマンショック時においても、他の先進国が軒並みマイナス成長でも、プラス成長達成しました。部門別GDPでは、工業が4割、サービス業が6割弱となり、先進国経済としては工業の割合が多くなっています。半導体や通信機器、自動車などの産業が強い。サムスンやLGは強いのです。

韓国経済を語る上で欠かせないのが財閥の存在、財閥10社の国内総生産の8割を占めるのです。特に、サムスングループへの存在度は高く、売上げは韓国のGDPの18%にも及びます。今年2月17日にサムスングループの実質トップの李（イ・ジェヨン）副会長の贈賄容疑で逮捕されました。捜査の結果次第ではサムスンの経営状況に影響が出る可能性があります。韓国経済のダメージにもなってきます。韓国経済の最大の問題点は貿易依存度の高さです。日本とアメリカは3割未満、韓国は96%です。

韓国は、隣国北朝鮮と休戦状態であり、常に緊張を強いられています。北朝鮮の挑発が激しくなっており、国際社会による経済制裁もレベルが上がってきました。最も被害を被るのは韓国です。また、最近「終末高高度防衛ミサイル」の配備によって中国との関係が悪化しています。日本とは歴史問題で関係がギクシャクしていることなども課題として挙がっています。

輸出依存度が高い韓国にとっては、日中との関係悪化は望ましくなく今後の展開には注意が必要となってきました。

商縁プラザ 理事

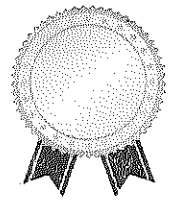
「京都町屋大学」設立講師 進藤幸男

<トピックス>

◆柳野国際特許事務所 所長 柳野隆生氏が「知財功労賞」を受賞されました。

VEC創立以来、何かとご尽力頂いております柳野隆生弁理士が我が国の知的財産権制度の発展等に貢献された事が高く評価され特許庁長官表彰を受賞されました。

同庁は毎年4月18日の「発明の日」に表彰者を発表されており、柳野弁理士の永年に亘る伝統的な弁理士業務や中小・ベンチャー企業への知的財産権の活用や国際関連の支援等に対する表彰であります。引続き益々のご活躍をお祈り申し上げます。



◆毎年恒例の「高野山大学フジキン小川修平記念講座講演会」が高野山大学で開催されました。

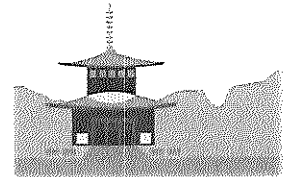
今年の開催は7月22日(土)に世界遺産で弘法大師・空海によって1200年前に開創された聖地 高野山の高野山大学で「宇宙の摂理への想い～科学と宗教の視点から～」として3名の先生から講演がありました。講師の氏名と演題をご紹介します。

講演1: 「人工知能と書」長尾 真先生 (京都大学名誉教授・元総長/国立国会図書館元館長)

講演2: 「手書き文字認識の過去・現在・未来」中川 正樹先生

(東京農工大学卓越教授・大学院工学府情報工学専攻)

講演3: 「弘法大師の書」木本 南邨先生 (高野山大学名誉教授/書家)



当日の会場(松下講堂 黎明館)は満員の参加者で溢れ、著名な講師の講演内容から大いに学ばせて頂きました。企画運営されたフジキン様と関係者の方々に感謝申し上げます。

知っておきたい労務情報～専門家に伺いました

◎労働基準監督署の調査とは。

労働基準監督署では、

- ・事業場を計画的に監督指導する。
- ・労働者からの申告を受け付けて処理する。
- ・重大・悪質な労働基準関係法令違反事案を捜査・送検する等の業務(労働基準監督業務)が行なわれています。

調査の際には労務帳簿類(労働条件通知書控、労働者名簿、賃金台帳のみならず就業規則、各種労使協定、健康診断個人票や年次有給休暇管理簿)の提出も求められるそうです。専門家は日頃の書類整備を怠らないことが大切とアドバイスされています。

◎非正規労働者の無期転換ルールが来年4月にスタート。

5年を超えて勤務した非正規労働者を正社員同様に定年まで働けるようにするルールです。

2013年4月以降の契約が対象で施行から5年後の来年4月から適用が始まるので、これを機に人事制度の見直しをするなど詳しくは専門家とのご相談が大事です。

VEC関西支部 事務局

～VEC関西より～

・7月17日といえば日本三大祭りの一つ祇園祭。京都はその日が一番暑い日と言われています。夕方、浴衣を着てうちわをもってぶらり散策しても人が一杯です。すぐ汗がじわじわ出てきてビールのある酒場に飛び込んでしまいます。でもよく見て下さい、澤村事務局長が山鉦の先頭で静々と歩いていたのが発見できたはず。8月は16日の大文字送り火が京都ではおすすめです。(本田)

・ご近所仲間のご夫婦が海外旅行に出かけるので留守宅をよろしくと頼まれました。犬を飼っているので遠出はと迷っておられたんですが、犬のお世話も花の水やりも込みで鍵を預かりました。久しぶりの犬のお世話でしたが楽しかったです!改めて思いましたが犬を飼ってられる方々、毎日お疲れ様です!(藤本)

・毎日の暑さで喉も乾き、このタイミングで友達や後輩たちに「暑気払い」という格好なタイトルで仕事終わりに誘っていた私ですが唯一自慢の体力も夏風邪により気力も下方方向へ。日頃の体調管理が

十分できていなかったと反省し、このひと夏に向けエンジンかけ直します。(濱本)

・柳野国際特許事務所の柳野代表にはVEC創立以来何かとご尽力を頂いております。この度の受賞を心からお祝い申し上げます。沖縄在住の城間様は以前ベンチャー支援の研究で沖縄から関西の大学等に在籍されていました。今年も地元ならではの情報を発信して頂きました。今年の祇園祭も20万人を超え、熱気溢れる神事でありましたが無事3時間の巡行を果せました。平安時代からのベンチャー精神が今も失われていないのが本当に凄い事です。(澤村)

<交流会の予定>

平成29年9月20日(水) すみれナレッジ 代表 岡部佳子 様



～石田会計事務所 所長 石田和子様から 女性の起業や経営、 企業への支援などについてお伺いしました～

1973年2月に会計事務所を独立開業され税理士として、また女性企業家の応援者として永年リーダー的に続けておられる一方、ファッション分野など多角的な活動もなされています。

- Q. 独立されました当時はまだまだ女性の経営者が少なかったと存じますが、当時の思いや世の中はどのようでありましたか。
- A. 独立した40数年前はどの分野でも女性の経営者は少なかったと記憶しています。女性の社会進出はまだまだでありました。当然女性の税理士も合格者はほとんどなく、当時の合格者は2%位ではなかったかと思います。また独立開業後の6ヶ月位は全く案件がなくその後も3年位は休業状態で不安な毎日が続きました。私が税理士を目指したのは体が弱かったので恩師から資格を取って自由な仕事に就いてはどうかとのアドバイスがあったからです。
(今、自由業は不自由業でもあると思うこともあります!)
- Q. ライフワークの一つとして女性経営者を応援されていますが設立後30年となるOWEN会長として女性の事業家や起業家へのアドバイス等をお願いします。
- A. 女性の起業や社会進出は必要と考えておりますが女性経営者で本当に成功している人はどれ位あるのかと思っております。失敗セミナーも必要な位です。女性は家庭や子供を抱えていることを意識することが大事で、趣味に近い思いで仕事をするのか、一生を仕事に掛けるのかを明確にしておくべきです。
女性に共通しているのは「うまい話しに乗せられる」「相談相手を間違える」「安易な設備計画や資金計画」等々で何と云っても資金不足でつまづくケースが多いです。甘い考えを持たず信頼できる人のアドバイスも受けて赤字になった時のことを考えながら厳しく経営することが成功への道です。
- Q. 本業以外にも中高年女性の為のファッション事業や日本ライセンスビルのオープンなど多角的にご活躍されていますが、これからの夢や展望などを教えてください。
- A. 女性の為のファッションだけでなく、これからは男性のファッションも必要な時代ですから考えて見たいと思っております。男性は「さわやかさ」、女性は「働き易くそしてエレガント」を強調します。本業のライセンス業は、すでに着手を始めておりますがライセンス仲間が集まり一か所で総合的なサービスが出来るような仕組みが出来ると目指したいと思っております。
- Q. VECや支援機関に対する要望などお聞かせ下さい。
- A. 色々な支援機関は多いですが、そこに支援を求めておられる方々がどれ位満足されているかが大事です。是非応援は必要ですが主催者側の一方的な思いや支援過多となっていないかの検証は必要です。支援機関に求めておられるのは例えば「売りたい、買いたい情報」や「本音が言える」「すぐれた経営者と会える」などがあります。その辺りを勘案された支援を切にお願いします。



～GTE (グローバル、テクノロジー、アントレプレナー) 成果発表会が開催されました。 今年はシリコンバレーから高校生も参加!～

高校生に対し世界で通用するベンチャー教育を实践させようと(一社)カピオンエデュケーションズ 代表理事 曾我弘氏と理事 能登左知氏が昨年続き今年和歌山市のホテルグランビア和歌山で開催されました。

3チーム9名によるプレゼン最終日の8月4日(金)は国内外の高校生が若いエネルギーで熱くパワフルに発表されましたがそれ迄の4日間は初めて会ったメンバーとチームづくりやビジネスモデルの構築など、かなりハードなスケジュールであったと聞いております。

コーディネーターはシリコンバレーから高校教師で公認会計士のジャストン・グラス先生が指導され、発表はすべて英語で、考え方もシリコンバレー流を徹底して高校生も大いに教訓と啓発を受けられた事と思えます。



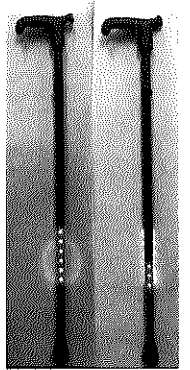
(参加者・サポーターの方々)

VECも市川理事長、黒田総務企画局長がサポートさせて頂きましたがシリコンバレーに詳しい関係者の情熱が多数の参加者にも十分伝わりベンチャー教育の重要性を実感いたしました。

和歌山市長も述べられていましたが、これを機にベンチャー精神溢れる若き起業家が輩出されることを切に願っております。

～シニアベンチャーが新商品の「ステッキ」を開発されました～

- ・創業が昭和42年の写真現像事業からスタートされている老舗ナパージュ有限会社の中藤肇専務がこの度シニアの発想で新商品「光るステッキ」(実用新案申請中)を開発されました。
- ・「キャッチフレーズ」はステッキを夕方や夜にスイッチONするとLED照明により前面は白色、後ろ側は赤色で照らしてくれます。シニアのみならず、どなたでも注意信号として多目的に使用できます。ステッキの長さは4種類、重さはわずか350g(電池込み)、電池はリチウム、カラーはゴールドとブラウン。上代価格は27,000円(税別・電池含まず) 目途でモニターも募集中。
- ・他にメインの事業である、押し花アクセサリ専門店としてフラワーアーティストが手作りしたオリジナル作品の販売やステップライト(LED照明による階段の事故防止商品)など、ユニークな物づくりにチャレンジされています。ご関心のある方は下記へご連絡下さい。



(正面) (後側テールランプ)

- ・照会先： ナパージュ有限会社 専務取締役 中藤 肇
〒558-0004 大阪市住吉区長居東3-18-30
TEL 06-6696-8166
FAX 06-6696-8167
携 帯 090-4291-3334

紹介者：株式会社セールスレップコラボ
代表取締役 堀部 武司

最近の北京事情

私は今年の5月頃に北京に行って参りました。(帰省???) 5月の北京は過ごしやすいと思いましたが、大間違いでした。30℃越えて大阪より暑い日もありました。北京に住んで20年以上の人に聞くと、北京は夏と冬の季節がはっきりしていますが、春と秋は比較的短く、あまり季節感がないそうです。北京の5月はどっちか言うと、夏に近いかもしれません。



今回、北京で5日間しか滞在しませんでした。一番の大きな収穫は、2014年頃から北京政府による都市化政策を大きく変ろうとしていることを肌で感じました。その一つ大きな変化は、2017年(今年)の年末までに北京にある「四大卸売市場」を河北省と天津市等の町に移転することです。四大卸売市場の名前はそれぞれ「动批」、「官批」、「天意」、「万通」です。私は、北京に行くと、いつも「动批」と「官批」に買い物に行っていました。今回も行きましたが、「动批」はすでに閉鎖されており、これらの卸売市場は一般の消費者も買い物ができるようにしています。地元の市民もよく利用しているそうです。「动批」は「北京动物园服装批发市场」の略称です。文字通りアパレル関係の卸売市場です。この市場は、30年以上の歴史があり、中国東北地方に最大のアパレル関係の卸売市場でもあります。この市場は30万平方メートルがあり、1万3千店ぐらゐの間屋が商売しています。中国政府は今回の移転計画を打ち出した理由として、交通渋滞の緩和、建物の老朽化、そして、5万人から10万人と言われる流動人口を減少させるためです。私の独断偏見ですけど、一番の理由は流動人口を減少させるためだと思います。

この移転計画によって卸売業と小売業に大きな影響をもたらしただけでなく、これらの卸売市場に頼って生活している購買ガイドや運送会社、物流会社と周りのレストランもこの計画によって生活を大きく変わろうとしていると思います。

一般市民の意見は賛否両論です。ある人は、安くて綺麗な服を買えなくなると、とても残念がっていました。一方、この市場の周りの住民は賛成している人が多かったです。周りの環境がよくなり、一人でも、安心して外に出かけることができます。今まで、この辺りはほとんど地方からの出稼ぎにきている人が多く、トラブルも頻繁にありました。

将来、この跡地はグレードアップしたファッション設計や電子商取引等のハイクオリティの商業施設に生まれ変わる予定です。これからの北京はどのような変貌を遂げるのでしょうか。

通訳・翻訳者 木村 玲菜 (旧・修 れいな)
(元・本田工業株式会社勤務)

～VEC関西より～

・今夏は連日35℃に迫り直射日光が身を焦がしました。さすがにこの夏はゴルフ辞めようと思いましたが、今、男性用日傘が売れているそうです。帽子は髪の毛が乱れて困るので、デパートでも行って来ようかなと思う季節ですが、秋風が待ち遠しいですね。もう少しの辛抱です。(本田)

・野球観戦のチケットを頂いたのでナイターとは言え猛暑の甲子園球場に行ってきました。応援団は汗だくでも一生懸命です!点が入ると周りにいる知らない者同士がハイタッチを自然とします。クーラーで涼しい家での観戦もいいですが、やっぱり生での観戦は楽しかったです! (ビールも一杯飲みました!) (藤本)

・7月末から我が家の改修工事がはじまりました。日中の暑い中大工さんが朝早くから夕方まで汗だくで作業されておられます。私もこの間はなるべく家におるようにしているので、日中の家の中がこ

んなに暑いものか・・・仕事で勤務している方がどんなに体に優しいのか・・・。改修後が今から楽しみでもありますが、今年は身をもって暑さとの戦いを感じました。(濱本)

・今夏の猛暑にも拘らず「女性の活躍・高校生のサポート・シニアベンチャー・海外ホット情報」と色々なジャンルでご活躍中の内容を掲載出来ました。皆様のご協力に感謝申し上げます。(澤村)

<交流会の予定>

平成29年10月26日(木) 株式会社ファイブM
代表取締役 森 明子 様

～株式会社ヤマイチテクノ 代表取締役社長 山脇雅則 様に これからの企業経営や関西活性化などについて伺いました～



- Q1：当支部機関紙「てんこもり」は貴社にも印刷関係のご協力を頂きお陰様で毎月発行して13年（157号）目を迎えました。貴社は今年で53周年を迎えられていますが創立から現在までをどのように展開されて来られましたか。
- A：当社は、私の父が昭和39年に創業したのですが、当時事務機メーカーのリコーの創業者市村清社長が、創業するなりリコー製品を販売してほしいと言われてスタートしたのがきっかけです。当時は東京オリンピック後から昭和45年の大阪の万博に向けての景気の大幅な向上で盛り上がっていました。事務機の導入も盛んでしたが、現在の大企業の設立も盛んで、重厚長大の企業に支えられました。その後、東京、名古屋にも進出し、また、事務所も現在の西区にビルを建設しましたが、父は昭和59年に癌のため、亡くなりました。その後私は30歳であったのですが、後を引き継ぐことになりました。当時、社員200名で役員4名、課長以上40名いましたが、課長以上は年上であったと思います。覚えること、身につけることなどありましたが、役員を中心にやっていくしかなかったと振り返ります。役員とはよく話し合いをし、うまくやっていたが、ユーザーを持って造反をする事件などもありました。しかしその後、建て直しましたが、今から思うと世の中は、事務機のデジタル化、インターネットの普及、バブル景気の高まりなど経済状況の活性化のため業績の向上にささえられました。バブルのときもいろいろ誘惑もありましたが、ややこしいものには手を出しませんでした。その当時、大阪青年会議所に入会しましたが、現在そのメンバーは約半分がいろいろなこと、無くなっておりそのことを思うと感謝すべきです。事務機販売の同業者も6割が減っています。今後、事務機販売からネット商品のシステム販売、官公庁への電子納品保管管理システム、また、それに波及する3次元スキャナーなどシステム提案を増やしながら今後の展開を伸ばして生きたいと考えています。長男が33歳で入っていますので、巧くバトンタッチできるように、全社員を盛り上げていきたいと考えています。
- Q2：関西は2025年の大阪万博誘致や2045年のリニア大阪開業などの大きなテーマもありますが企業経営や地域経済活性化のためにはどのような考えが必要でしょうか。
- A：人口の減少が大きな問題なのですが、大阪万博や一時的な展示会にとどまらず、継続的に活性化することが大事であると思います。東京一極集中だけでなく、7大都市すべてを今より伸ばすことです。どの都市も駅前には以前よりもビルなどでできてきましたが、周辺都市も含めて、人口を増やすことを考えるべきだと思います。しかし駅前に高層マンションを作るのはどうかと思います。高層マンションのおかげで、たとえば東大阪市の瓢箪山などは空き地が増えておりますが、これは斜面の住宅は歳がいくと住みにくくなる。これはその通りですが、都市の真ん中は経済の中核であり、立派な企業が入居すべきだと思います。7大都市が中心になってその周辺都市もそれなりの地場産業として何らかのテーマなり課題を見つけてにぎやかにする。そこに雇用を発生させる。7大都市には今まで以上の権限を与える。そのようにして東京一極集中を多少でも和らげる。どの国民もやればやるだけ見返りを含めた貢献を評価するような仕組みを作れないかと思えます。現在は少子高齢化にもかかわらず、経済が好況であるのは不思議なくらいです。自民党に変わる野党、民進党がしっかりしてもらいたい。自民党がいい気になるのはしょうがない。しかし、このままではいかん。外交は自民に頼るしかない。そんなことより、少子高齢社会をどうするかを議論してもらいたい。7大都市の活性化と中小企業をもっとしっかりさせる対策を講じてもらいたい。
- Q3：貴社の将来展望をお聞かせ下さい。IOTやAIの浸透により業界も変化が予想されるのでしょうか。
- A：IOT（もののインターネット）、AI（人口知能）の普及によってハードもソフトもいなくなることを恐れます。今の家電のテレビのようにならないか。パソコンが普及したとき、それを中心販売とする販売店は、すべてなくなりました。パソコンの価格が安くなったためですが、それで利益を出すことは不可能でした。パソコンの中に会計ソフトなど、いろいろなソフトを活用して処理することは大切です。そのように技術の進歩によって従来の仕組み、やり方などがいらなくなってしまう。しかし、IOTなどを活用してハードだけでなく新ビジネスを考えてチャレンジする。商品という武器を開発し競争相手に勝つことが大切です。当社は、事務機販売と現在は3次元スキャナーの販売を続けます。また文書、データの加工サービスを強化します。
- Q4：VECや支援機関へのご要望などお願い致します。
- A：いつも参加させていただいて感謝しております。これからは自社で新商品を開発して販売する場合と他社と協同で開発する場合と商品は自社、販売は他社また、その逆の場合があると思われそうですが、その足りないところを支援するのが役割かもしれませんが、技術だけでなく、ビジネスモデルの面もあるでしょうし、何らかのヒントをお教えいただければ幸いです。



◆VECレポーターが行く!! ～永年ご活躍されています「司法書士法人 さくら国際 代表 司法書士・行政書士 櫻井 恵子 様」にお伺いました～

- Q1：司法書士になられた動機を教えてください。
- A：「オナゴのくせに何の資格があつてそんな生意気な口いきとんねん！」40年前、新聞広告を見て入所した木村達也法律事務所でサラ金業者に怒鳴られた悔しさが司法書士を目指す切っ掛けでした。入所2年目に木村先生が朝日新聞の声の欄へ投書された「サラ金110番」が契機で、二人だけの小さな事務所は戦争状態となりました。事務所の外には被害者の行列ができ、電話は鳴りやまず、全国から毎日大きなポリ容器一杯の助けを求める郵便物が届きました。今でこそ貸金業法や出資法で取り締まりが強化され、消費者金融の対応は丁寧になりましたが、当時は債務者に対する取り立ては執拗で、事務所にも反社会的勢力に近いような方から電話がかかってきて、先生がお留守の時によく怒鳴られました。山口県出身の私にとってその口調はショックで、その時、きちんと話をするには資格が必要だと思ったのです。しかし、今更、司法試験はしんどいし、司法書士なら何とかなるかもと消去法的に選んだ資格です。
- Q2：開業の動機を教えてください。
- A：合格後、司法書士事務所に3か月間勤めたのですが、怖い先生の事務所で、毎月高熱は出るわ、チックの症状は出るわで、早々に辞めて独立開業しました。司法書士の場合、元手がほとんどいりませんので比較的開業は容易でした。また、士業は当時の国民金融公庫で開業資金を借りることができました。
- Q3：36年間続けてこられた要因は何ですか。
- A：社会経験も乏しく、経営のノウハウも勉強せず、企業社会のルールも知らないままスタートしましたので、動物的勘だけでここに至っているような気がします。不動産売買では司法書士のゴーサインで大きなお金が動きます。決して間違いが許されない仕事です。登記は対抗要件ですから一瞬でも早い者が勝ちます。大切な書類を託される信頼第一の仕事でもあります。そこで、「正確、迅速、誠実」を事務所のモットーにし、事務所のロゴもそれを表しています。「自分が嫌なことは人も嫌であろうから絶対にしない。」が迷った時の判断基準です。会社法の大改正の時「これだけは今すぐ顧客に伝えたい。」と思いニュースレターの発行を始めました。今は年2回ですが「自分が知りたいことは人も知りたいであろう。」と、ITの時代ではありますが、郵送の方が読んでいただけるかなと思いつきに発行を続けています。すでに結婚をしていましたので、赤字さえ出さなければよいという経営感覚で事務所の規模より一人多く採用し、その分顧客にきめ細やかな対応を心掛けました。素人の事務所運営ですが、バブルもあり十数人のスタッフがいた時期もあります。数年間休みなしで、毎晩午前2時、3時まで働きました。そのとき、人や資金の管理が増え現場で顧客と接することが少なくなり、これは自分のやりたかった仕事とは違うと思いました。もとよりそのような技量はありませんが、規模の追求よりやりがいを取ろうと決めました。

(次ページに続く)

仕事は断らない主義ですから、顧客が時代のニーズを教えてください。したがって、36年間の仕事の中身は時代の変遷と共に変化してきました。最初は不動産の取引や銀行の抵当権設定など不動産登記が9割を占めていましたが、バブルの崩壊で不動産登記は激減し、債務整理等の裁判事務、企業再編等の商業登記が増加しました。現在は少子高齢社会を迎え判断能力が低下した人（以下、「本人」といいます。）を支援する成年後見業務が新たに加わりました。また、外国企業の進出や人手不足対策で外国人の在留資格取得等の渉外業務も増加しています。会社法を始め近年多くの法律が改正されています。勉強が命と毎年100時間以上の研修を受けていますが、新しいことを学ぶワクワク感はこの年になっても不思議と衰えません。

Q4：女性の士業に対するアドバイスをお願いします。

A：36年前は20代の女性の取引の立会いは顧客から不安の目で見られましたが、現代は女性の優秀さは浸透していますので不安視されることはないと思います。むしろ悪いことはしないであろうという安心感があるのではないのでしょうか。当時、女性の司法書士は数パーセントしかいなかったのが、一度会うと覚えてもらえるというメリットはありました。今でも全体の2割ですから同様のメリットはあると思います。

私が今力を入れている後見業務はお年寄りの8割は女性ですから、ご本人の気持ちに寄り添い易く女性に向いている分野だと思います。

子育てや介護との両立を悩まれる方も多いと思いますが、私は仕事をしていてマイナス面を感じたことは余りありません。子育てには本当に多くの人に助けられました。あらゆる場で悩みを話すと思議と助けてくれる人（元幼児教育の先生、発達障害を勉強していた塾の先生等）の情報が寄せられます。保育園や学校が終わってから私が帰宅するまでの間、十数年間、網渡りではありましたが20人近くの方にお世話になりました。オーストラリアやバミューダ諸島の大学生のホームステイを受け入れ、夜はベビーシッターをしてもらったこともあります。発達障害のある少し育てるのが難しい子でしたから、私が一人で育てていたらおそらく児童虐待につながっていたのではないかと思います。嫌な顧客に合わなければならないとき、クレーム対応しなければならぬとき、へこみそうになる気持ちを奮い立たせてくれたのは子供の存在でした。この子のためと思えば踏ん張れます。親の介護も7年目になりますが、仕事があることで長丁場を乗り切れるように思います。

Q5：これからの計画、夢などお聞かせください。

A：17年前新しい成年後見制度がスタートしました。後見業務を始めてようやく求めている仕事に出会うことができ、司法書士になって本当に良かったと思えるようになりました。法律・介護・福祉・医療の知識とこれまでの自分の経験を総動員して、ご本人の生活面や法律面のサポートを行っていきます。ご本人の貴重な人生の一端にかかわらせて頂くという畏れと同時に、ご本人の意思実現の支援とQOL（生活の質）の向上に寄与できた時の喜びを感じております。現在、日本には900万人近く成年後見制度の利用が必要な人がおられるにもかかわらず20万人にしか利用されていません。昨年、成年後見制度の利用促進を国を挙げて行うことが決まりました。これまでの福祉の枠組みに司法が新たに加わる「権利擁護支援の地域連携ネットワーク」の構築が大阪府下43自治体で始まります。5年計画での取り組みです。これからは、本業半分、成年後見制度利用者がメリットを感じられるようなシステムの構築のお手伝いに半分、できるるところまで突っ走りたと思っています。

Q6：VECに期待されることはどのようなことですか。

A：40年前は女性の経営者も少なく、ビジネス用のスーツ、バッグを探すのに苦労しました。その後も、身近にスーパービジネスウーマンではなく身の丈に合ったロールモデルがおらず、上記のように働いて生きてきたように思います。起業を考える女性のための結婚、子育て、介護、資金繰り、営業等何でも気軽に話せる少人数で話しやすい場の提供があればと思います。



(櫻井 恵子様)

「株式会社ベイルインテリア 金城貞美の インテリア収納からはじめる開運術」②

整理収納とは仕組みづくりです。モノを使ったら【元に戻す】ことが片付けです。元に戻す定位置が無ければ片付けはできません。その場所の見え目が良ければ良いほどその場所を維持したくなります。その仕組みづくりのポイントと美しさの持続方法をお伝えします。

《元に戻すことを習慣にする》

収納がうまくできない原因は、そのモノを元に戻す場所が無い、もしくは元に戻す場所の作り方を間違えている場合がほとんどです。一般的に皆さんは【使いやすさ】を重視して収納場所を作っていませんか？

よく使う文房具であるハサミを例にしましょう。引き出しにしまっているハサミを使った後に、元に戻すのが面倒で机の上に出しっぱなしにいませんか？何故そのままにしてしまうのか、それはハサミを戻すためにまた同じように引き出しを開けるのが億劫になるからです。

という訳で、冒頭でもお伝えしたように【使いやすさ】よりも【元に戻しやすい】ことを重視して収納することが重要なポイントになることがお分かりいただけたかと思います。

そこで、【元に戻しやすい】場所、つまり【モノの住所】を決めていく作業が重要になります。そして同時にその【モノの住所】が家族誰にでもわかることも大切です。

ラベルプリンターでシールを貼ってもいいですし、小さなお子様がいらっしゃるご家庭ならイラストを書いてもいいでしょう。これを習慣付けることが美しい空間を維持し続けられる秘訣となります。

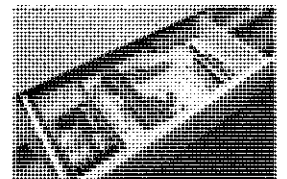
《ビジュアルを美しくする》

綺麗な状態だとそこを綺麗なままにしておきたい。誰しもがそう感じるでしょう。しかし、少し乱れてくると途端に「もういいや」とどうでもよくなってしまいがち。

なので、維持する為に大切な【美しい収納システム】をつくっていきましょう。棚や引き出しをカゴやボックスなどの収納グッズを使って整えていきましょう。そこで大切なポイントは、色や形を揃えること。同じ100円のものでもメーカーが違えば色味や形も違ってきます。そこで、収納グッズを購入するお店を決めてお買い物することをオススメします。お部屋のインテリアに合わせるのももちろんですが、扉付きの棚の中など外から見えない場所でも、白や透明で統一すると美しく仕上がります。

まずは文房具から始めてみてください。整理収納の仕組みをつくって、綺麗で美しいお部屋を維持しましょう。

株式会社ベイルインテリア 代表取締役 金城 貞美



(文房具の収納例)

～VEC関西より～

・北朝鮮の金正恩が何かと話題になっていますが人民の生活はどのようになっているのでしょうか。国のシステムの再構築が求められます。ベンチャー企業も内部改革は重要なテーマのひとつです。(本田)

・秋祭りの準備のため、あちらこちらと提灯がぶら下げられ出し、だんじりの練習も始まりました。岸和田のだんじりとは程遠いものですが・・・青年団の人数も減ってきているようで他市からの参加も受け入れられている様です。当日は車に乗っていると、だんじりの行列を如何に回避するかと・・・だんじりとの追っかけっこです！(藤本)

・恒例となりました真空フライヤー機械メーカーである(株)アトラステクノサービス 鯛かおる代表所有の田んぼの稲刈りに参加しま

した。鯛代表は6次産業化事業でもあるお米作りにも積極的に取組まれ今回は「米づくりは奥が深い」と教えて頂きました。来年も農業女子で頑張ります。(濱本)

・永年経営に携わって来られた山脇代表と櫻井代表から貴重なメッセージを頂きました。また金城代表からもシリーズ開運術インテリアのノウハウを伝授頂きました。皆様にはそれぞれのお立場からご精読頂きましたら有難く存じます。(澤村)

<交流会の予定>

平成29年11月13日(月) 株式会社 プロネクサス

常務執行役員 石橋 正明 様
大阪支店長

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293



～阪南大学石井ゼミ・タイ研修プロジェクトの成果報告～

～タイとの懸け橋・(株)アトラステクノサービスの寄贈チップス～

昨年度とほぼ同じ9月6日(水)～11日(月)の期間に、同じくタイ・ブーケット島において、国際交流活動の一環として、石井ゼミ2・3・4年生総勢36名を引率しての研修プロジェクトを実施しました。今では学内では著名となった石井ゼミのタイ研修プロジェクトは、文部科学省の現代GP(グッド・プラクティクス)事業として取り組まれたことに始まります。学力評価だけでなく、広く学生のもつ多面的な能力や資質を引き出し、それを現代社会の多様なニーズに結び付けながら、総合的な人間力の養成を目指した現代GP事業は、偏差値教育では対応できない社会人の基礎力を形成する役割をも担っていました。すなわち、その事業には、変転極まりない環境に柔軟に即応するためには、いわゆる高度成長期のガンバリズム型人間感から脱却し、これまで世間に根強く流布する高偏差値=優秀な人材という考え方からの転換を図る政策的意図が込められていました。

阪南大学では、この現代GP事業を引き継いで、大学の敷居を自ら低くし、積極的に社会や地域とオープンに連携して、独自に課題を設定して問題解決していくスタイルの実践性溢れる教育を目的とする「キャリアゼミ」制度を新設し、現在、さらに産学連携型を明示的に取り込んだものへと進化・発展をとげるに至っています。

これまで紆余曲折のプロセスを経ながらも、石井ゼミの一貫したコンセプトは、①マングローブ植林を通じた環境問題への取り組み、②国境を越えた交流活動による異文化理解の2つの課題に集約されます。この2つのコンセプトは、①自然と人間の関係の改善・調和は、②人間と人間の関係の相互理解をベースにしてこそ本領を発揮し、わかりやすく表現すれば、「木を育てながら、人を育てる」という理念に裏打ちされています。そして、この2つの課題を追究する中で、学生達のタイの総合的な地域理解を深めながら、タイから学んだことを教訓にして「アジアのなかの日本の未来」について、次世代を担う学生達に、少しでも創造性豊かに考えてもらいたいというのが、私の期待であり願いでもあります。

今年の研修プロジェクトにおいても、昨年同様、①バンガー湾のバン・パット村(Ban Pat)でのマングローブ植林、②ブーケットタウンに所在する孤児院において多彩な交流アクティビティを行いました。

この2つの課題の実践の場をブーケット島・バガン湾エリアにしている意義と背景としては、2004年12月にいまだ記憶に新しいスマトラ島沖地震が発生し、その津波の直撃を受けた被災地であり、マングローブ林のもつ防災機能や役割を実地に学ぶのには好都合のフィールドであるからです。私たちが宿泊したパトンビーチエリアの被害は、いまでもマスコミ報道の映像が目には焼き付くほど衝撃かつ甚大でした。そして、このときに被災し両親を喪った子供たちが収容され共同生活を送っているのが、昨年同様訪問している孤児院(サンシャイン・ビレッジ)で、痛ましい「津波による被災」を介して、①と②の活動の意義や価値を見出すことにこそ、昨年同様今回のプロジェクトの趣旨があります。今回は、カマラビーチのTUNAMI被害記念碑にも足を伸ばし、当時の津波の被害に想いを馳せつつ、多くの犠牲になられた被災者のご冥福を念じてきました。

①については、潮が引かない沼地同然の湿地エリアで、腰まで浸かる悪条件のなかで、苗木(かなり成長したもの)100本を植樹したことが特に印象的でした。手探り状態の満潮の沼地での作業は、見ているだけでも過酷で、靴や衣服の汚れを気にしても無駄であることを観念しなければならないほどの難業でした。そのほかにも、種子に近い苗木ともいえない苗を植樹しましたが、今年は100本程度しか植樹できなかった悪条件下の作業を初めて体験したことにより、マングローブの生態環境の多様性を实地に学ぶことができる機会に恵まれたと、前向きにとらえることができるでしょう。ちなみに、植樹したエリアには、石井ゼミの看板を立ててもらいました。植樹活動は、どこの地域でも勝手にできるわけではなく、村長はじめ村人の理解と協力があってこそ可能で、村長のYAM氏(56歳)には昨年同様大変お世話になりました。

②については、昨年同様、スポーツ系(バスケットボール、フットサル、フリスビー、輪投げ、紅白玉入れ)と伝統的な日本の遊びや文化系(折り紙、塗り絵、紙飛行機)の2つの分野を中心に多彩なアクティビティを企画・運営しました。孤児院の子供達は、総勢約60名程度で、笑顔を振りまく子供達と充実した楽しい交流の機会をもつことができました。今回特筆すべきことは、孤児院のご厚意で、子供達と一緒に食べる昼食づくりという活動が新たに加わったことです。昼食づくり班を編成し、職員の方々の指導のもと、食材の調理加工を行って、汗だくになりながら、本格的な家庭のタイ料理を見事に仕上げ、子供達と一緒に食べる楽しく愉快なひと時を過ごすことができました。

さらに今回の研修プロジェクトのメインイベントは、③の課題として、孤児院の子供達に寄贈するオリジナルブランドのお菓子(ドライ・チップス)づくりを(株)アトラステクノサービスの多大なご支援とご指導によりチャレンジさせていただいたという点にあります。6月、7月と2回にわたって、鯛かおる社長に遠路あべのハルカスまで足を運んでいただいて、真空フライヤー技術と装置の原理、それを活用した6次産業化の意義、さらに実際の試作品を使っただけの品評とドライ・チップスの効果をご説明していただいたうえで、学生達23名が参加し、8月22日に実際のチップス製造の一端のお手伝いに着手いたしました。

工場内を見学させていただきながらの鯛社長の情熱的な指導とスタッフの懇切丁寧なアドバイスのもと、100袋の袋詰めチップスを作り上げることができました。菓子袋のデザインは、難航しながらも、学生と会社の共同作品として作成し、ニンジン、ジャガイモ、マンゴー、バナナ等のチップスをアレンジして混入した、一応寄贈するに相応しいものに仕上がりました。孤児院での昼食時に子供達に食べてもらいましたが、みんなの暖かな笑顔を見るにつけ、学生共々、鯛かおる社長の献身的なボランティア精神には頭が下がる想いでいっぱい、本当に感謝に堪えません。また、現地情報を収集し、現地日系企業との連携に労をとっていただいた(株)アズトラベルサービスの柴辻章社長はじめ、VEC事務局の支援・協力に対しても、この場をお借りして深謝いたします。



(孤児院へのお菓子の寄贈)

阪南大学経済学部兼大学院企業情報研究科 教授
石井 雄二

～高齢者セミナー(それでも歴史は繰り返すか)(前編)

団塊世代もとうとう70代に迫り、戦後の高度成長を一身に浴びてきた世代にどういふ老後が待っているのか、2020年～2030年代は？(朝鮮半島動乱と日本の国家社会体制の変化の歴史的因縁について)

1、渡瀬恒彦氏の突然の訃報(72歳、テレビの十津川警部に憧れ)に団塊世代もショックを受ける時代に差し掛かりました。じゃ我々、団塊世代とはなんだのか。堺屋太一氏は狭く(昭和22年～23年生まれ)限定していますが、実態は昭和21年から30年生まれの2,000万人の世代で、この世代が東京オリンピック、平成天皇のご成婚、新幹線を見て育ち、結婚し、家庭を持ち、家を買って、車に乗り、家電製品を買って揃え、レジャーをし、子供を育てる中で大型消費景気(昭和30年代から始まった投資景気を繋げた)を展開し、戦後の高度成長を現出させたのです。

堺屋氏が過当競争と過剰設備をもたらした世代だと椰櫚しましたがそんなことは全くないのです。2000年以降消費が盛り上がり上がらないのは、この世代が次々、リタイアし年金保険料支払い世代から、受給世代へと転換する大変化の時代に突入しているのが大きな原因です。

50兆円の年金給付額に対し現役世代の支払い保険料30兆円のアンバランス状態が明確に示している(差額は税金投入10兆、GPIFの取り崩し10兆)生産年齢人口8,000万人時代から7,000万人時代へ。経済成長は先ず人口問題が解決されない限り再興はあり得ないのです。

(次ページに続く)

2、さて、この4月から7月にかけて、国債市場に異変が起きた。

戦後初めて10年国債の取引不成立が2回起きた。

日銀の保有国債等も500兆に迫り、市場取引者に日銀への疑心暗鬼が生じ、結果この異常な金融緩和の副作用が表れたと言える。

欧米の金融緩和の終焉に伴い、長期金利の上昇が日本にも波及してきたが、日銀の強引な指値オペでなんとか0.1%以下に抑え込んだ。安倍政権は自分の手でオリンピックの成功と歴代総理が成しえなかった憲法改正を成し遂げたいと言う『レガシー』作りに入っており、この何となくふわっとした0%金利による景気回復感が政権維持装置であり、2021年総裁任期までは長期金利0%代維持のため日銀の国債購入を続けざるを得ない。

3、しかし、こんな財政金融問題を一気に吹き飛ばしてしまう朝鮮半島が一気に緊迫化したことです。

近くて遠い国 この朝鮮半島の動乱は不思議と日本の国家社会体制の変化と何故か不思議な連動性を感じざるを得ないのです。

4、古くは663年百濟再興の為に朝鮮半島に兵を送ったが、白村江（はくすきのえ）の戦いに敗れた為、天智天皇は唐・新羅軍の防衛の為に西日本各地に城を構えたが、結果的に天智系の体力を奪い、壬申の乱で天武系に取って代わられた。

5、豊臣秀吉の文禄・慶長の朝鮮役です。

石田三成内務官僚と大谷吉継軍務官僚による中央集権体制がこの朝鮮役により政権の弱体化が始まり、豊恩顧大名の離反が始まり、関ヶ原の役を経て各藩に居る程度の自治を認める徳川家の幕藩体制へと移行した。

6、明治維新後の武士階級の不満のはげ口として西郷隆盛の朝鮮出兵（李朝の鎖国政策撤廃）の提案が否定されると、閣僚を辞任して、そして西南戦争が引き起こされ、結果 大久保利通による中央集権国家体制が敷かれ、日本は富国強兵へと突き進んでいった。 <次号に続く>

(2017年7月記)

日本生産性本部認定コンサルタントによる財政問題研究会
歴史問題研究班 班長 不動産鑑定士 山口 孜

～0歳からの足育～ 生涯足育プロジェクト®

足育プロジェクト協会では“足育”を「足の大切さを知り、足を健康に育てることを、家庭を中心とした日常生活に習慣として取り入れ、実践すること」と定義しています。足は毎日私たちをいろんな所へ運んでくれる道具です。

お口の健康は自分の口の状態を知り、毎日正しい歯ブラシを続けることで守られます。現代は外遊びの減少や、舗装された道路、バリアフリーなどの社会的な要因により、子どもの足の浮き指、扁平足などのトラブルが増えてきています。また、合わない靴を履く弊害で外反母趾や足裏のタコ、ウオノメで人知れず悩んでいる方も多いためです。

足は健康は自分の足のサイズを知り、自分の足に合った靴を正しく履き、適度な運動をすることで守られます。

毎日、つま先でトントンと履く靴を踵でトントン合わせて紐を結び直す。いつも車で移動しているところを歩いてみる。

生活の中で足育を気にかけて生活をする中で、からだの土台である足を健康に保つための知って得するポイントを足育講座でお話ししています。「仕事ができるビジネスマンのための足育講座」「パンプスだって痛くない！仕事力UPのための足育講座」「我が子の未来を拓く足育講座」「ママのための足育講座」などご依頼に応じて講座を行なっています。

今秋、10月15日（日）梅田スカイビル24階積和不動産関西において発達神経内科医の林万里先生を東京から関西にお迎えして「赤ちゃんのからだの発達 気になること 大切にしたいこと～」のテーマで協会主催の講演会を開催しました。今後も多くの世代の方に足を育む大切さを伝えていきたいと思っております。

特定非営利活動法人 日本足育プロジェクト協会
代表 玉島 麻里

住所 〒639-1132 奈良県大和郡山田市高田町102-7-310
電話 0743-85-6088



(玉島麻里 代表)



今年も「みどりのサンタフェスタ」が植育・食育・健康をキーワードに開催されます！

主催：（一社）テラプロジェクト みどりのサンタ実行委員会
実行委員長 小林 昭雄（大阪大学名誉教授）氏

子供の頃からみどりに触れる環境を提供し子供達の心を育むことやみどり豊かな街づくりの一助となることを目的に開催されます。

◆開催日時：平成29年12月1日（金）～9日（土）10:00～17:00

◆場 所：うめきたガーデン（JR大阪駅北隣）

◆参加費：無料（シンポジウムは要事前申込み）

◆イベントの一例：みどりのサンタウォーク、クリスマスツリー作り、柑橘・オリーブ等の展示販売、フードコーナー、シンポジウム（みどり化ワークショップ、アンチエイジング、中小企業社長塾、若者からのメッセージほか）等々。

詳しくは【URL】 <http://thera-projects.com/> をご覧ください。

主催者からは「もっとみどりを楽しもう！」と学術シンポジウム、レモン/オリーブワークショップ、各種イベントへ、皆様のご参加を呼びかけておられます。

記・関西支部 事務局

～VEC関西より～

・先日、地下鉄で出社するため混んでいたのがボンヤリ吊革に掴まっていたら前に座っていた30代くらいの男性が、どうぞと席を譲ってくれた。初めての出来事で面食らったが好意を受け入れることにした。内心ショックで、そんなに年寄りに見えたのか！客観的に見て、疲れてしんどそうだったのか・・・。元気なつもりが傍からはそう見えならしい。暫く考え込んでしまったがベンチャー精神はまだ健在です！（本田）

・最近、高速道路で「あおり運転」での事故のニュースをよく聞きます。私も子供が小さい時に経験をしたことがあるので、その時の恐怖は今でも覚えています。高速道路では逃げようがないので車を止めるしかありません。普段通りの運転をしていても何が切っ掛けでそういう事になるかも知れないと思うと怖いものがありますね。安全運転第一！！（藤本）

・「スポーツの秋」といえば運動会シーズンです。私が通っていた幼稚園もかわいい園児の大歓声が聞こえます。今年はなんと運動会で私の幼稚園時代の担任の先生と何十年ぶりの再会ができました。当時私は鉄棒から落ちて顎を切り病院へ運ばれた苦い思い出があります。でも先生が

私に対する再会した第一声は「けがの痕は大丈夫？」とずっと気にしていたと。本人でさえとくに忘れていたのに・・・。来年からお互い元気な証拠として幼稚園の運動会での再会を約束しました。（濱本）

・若い世代や地域の為に尽力されています石井教授と小林理事長からのメッセージから熱い思いが伝わって参ります。また山口様からは今回も鋭い分析でご寄稿頂きました。そして子供から大人まで足育について多方面でご活躍されています玉島代表からも足と靴の大切さを再認識させて頂きました。皆様のベンチャー精神溢れるご協力に感謝申し上げます。（澤村）

<交流会の予定>

平成29年12月4日（月） 株式会社 テーブルクロス
代表取締役 城宝 薫 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293



2017年 VEC 10大ニュース



今年もベンチャー企業は順調で、大型の倒産はなく新しいビジネスアイデアと共に新規参入も増えております。VEC関西も交流会の開催、「てんこもり」の発行、来訪者とのご相談、IAGなど他の機関とのネットワークの構築など多忙な日々をおくってきました。この1年を振り返って、整理してみました。

1. 交流会は今年10回開催し毎回ほぼ40名を超す方々がご参加いただきました。特に女性の参加が増えたように思います
2. 「てんこもり」を毎月発刊、今年12月号で第159号になります。スタッフがうれしい悲鳴を上げております。
3. 新年交流会（2月開催）は大阪大学 浅田教授から今話題のロボットのお話を頂きました。大盛況でした。
4. ベンチャー支援機関と市川理事長との情報交流会（7月開催）を開催しました。活発な意見交換があり、今後も継続できればと考えております。
5. 「ベンチャー白書2017」が11月に発刊されました。1冊税込み 5,400円です。ベンチャー関係の方はご購入よろしくお願ひ致します。
6. VEC創立の時から会員、柳野国際特許事務所 柳野所長が「知財功労賞」を特許庁長官から表彰されました。おめでとうございます。
7. 中国で留学やベンチャーを約10年間体験された、すみれナレッジ代表岡部佳子氏が「中国人観光客の財布を開く80の方法」（新潮新書）を発刊。インバウンド関係者などに大好評を頂いています。
8. 女性起業家の応援プロジェクト「LED関西」にVECはサポーターとして今年も参画しています。プレミアムクラブと共に当支部・濱本女史が大活躍です。
9. 今年も高校生が英語でビジネススキルとビジネス英語を短期集中で習得するプログラムである「GTE」が和歌山市で開催されました。ご存知 一般社団法人カピオンエデュケーションズが主催され、VEC市川理事長もシリコンバレーのジャストン・グラス先生や現地高校生とともに参加、サポート致しました。
10. 中部地区の大学生ベンチャー支援機関やニュービジネス協議会、キャピタルなどと連携について名古屋や大阪で情報交換を行ないました。

我々この一年、VEC関西支部も少人数で懸命にやってきましたが、本当にベンチャーの方々に役にたったのかといわれると分かりません。発展的なご意見、ご批判お待ちしております。

VEC関西支部 支部長 本田 英行

「ベンチャー白書2017 発売！ 事業法人様のオープンイノベーションに必携の白書！」				
	発行日	媒体	定価	発行場所
電子版	2017年11月8日	PDF+エクセル	5,400円	・VECのHP ・DLマーケット
冊子版	2017年11月22日	紙製本	5,400円	・全国の書店 ・オンライン書店
※お申込みはVEC東京本部（TEL：03-3230-8902）又は関西支部（TEL：06-6263-0366）でも受付しております。				

AI（人工知能）

日本経済新聞の記事に「AIによる代替可能性の高い職業」というのがあり、公認会計士85.9%、社会保険労務士79.7%、司法書士78.0%、弁護士1.4%、中小企業診断士0.2%と記載されていたことに大変驚きました。

ロボット導入が進み、自動化による人の仕事や作業が代替されていることや、IoTによる改革は少子高齢化社会に必要なですが、知的職業がAIに取って代わるという記事は衝撃的です。

AIがやるより人間の方がコストパフォーマンスがよければ、代替されることはないでしょう。開発において多額の追加費用が必要でなく、現行の人間に高い報酬を払っているということで、言語と論理力を使う知的職業が代替される可能性が高いということです。

将来AIの進化により仕事はなくなるというより、働き方が変わるのでしょう。

AIの技術進歩については、Googleの「アルファ碁」がトップ棋士に勝利したことは世界に大きな衝撃を与えました。人の能力を上回るAI(人工知能)が格段に進歩しています。

人工知能に関する研究領域には、「機械認識」や「ディープラーニング（深層学習）」の基礎分野と「画像認識」、「音声認識」、「自然言語処理」などの応用分野があり、「ディープラーニング」のブレークスルーがAIの飛躍的な進化に貢献しています。

和歌山のコミュニティーFMでは、AIアナウンサーが最新のニュースや天気予報をアナウンスしています。放送エリアの小さなコミュニティーFMではアナウンサーの確保が難しい、深夜、早朝、大雨や災害時などは特に難しい。AIアナウンサーを試みている理由として、東日本大震災の際に住民に避難を呼びかけ続け、防災無線に命を賭けた女性職員の存在があったそうです。AIがあれば彼女は救えたFMの代表は思われています。

日常生活ではインターネットの検索エンジンやスマホの音声応答アプリ、掃除ロボットや人型ロボットの活用など私たちの日常の身近な商品・サービスに組み込まれ始めています。将来は、自動運転車や自立型のドローン、自動運転トラクター、スマートマシン（自律的に動く機械）接客ロボット、執事ロボットなども誕生しそうです。高度に進化したコンピュータの処理能力とソフトウェア技術によって実現するAIには、IoTやビッグデータの活用と並んで私たちの生活を大きく変える期待が寄せられています。本格的な普及時代が到来したAIは、これから私たちの暮らし、産業、社会をどのように変えていくのでしょうか。

はしもと経営研究所 中小企業診断士 MBA 橋本 豊嗣
兵庫県立大学大学院 客員教授
(独) 中小機構 チーフアドバイザー

～高齢者セミナー（それでも歴史は繰り返すか）（後編）

7. 明治27年朝鮮半島に東学党の乱が起こるやいなや直ちに朝鮮半島に軍事進出し勝利するも結果的に三国干渉を招き、日清に続き大国ロシア相手の日露戦争を引き起こしてしまった（最近の研究でバルチック艦隊はアフリカ喜望峯経由33千キロを航行し疲弊しきっていた。ロシア革命で国内が揺るぎ始めていた。日本も軍事予算が底をついていた。薄氷の勝利であった）
8. 日露戦争勝利、日韓併合から満州経営の成功が軍部の自信過剰に繋がり、太平洋戦争の大敗北をもたらす、米国GHQ支配による軍事国家の解体につながった。
9. 戦後復興のきっかけとなった第一次朝鮮戦争のマッカーサー将軍の原爆使用が認可されていれば、第3次世界大戦の悲惨な結果がもたらされていたかもしれないが、逆にこの時の38度線設定が今日の金一族の核保有国家に走らせたのも事実であります。以上見ただけでも朝鮮半島地政学リスクは100年近く続いており、とてもとても1～2年で安定化する問題ではないんです。
10. それに対し、我が国は2020年末には日銀の国債保有は700兆に迫る中、アベノミクスはシムズ理論（金融政策が限界があるなら財政政策を積極的に取り入れる。それも国民がこれで成長を確信するなら財政問題は解消するという、もはや経済学ではなく宗教論の域）と言う米経済学者の理論導入も検討されており、結果的に国債購入はもはや止めれる段階は過ぎています。日銀は買って買って買まくらざるを得ない（米国もEUも500兆前後で資産購入策は辞めたのに、日本だけ野放図に経済再生というスローガンの下に続けざるを得ない）戦後最大級の課題を内外に抱え、戦後の成長特にバブル崩壊の失われた日本を支えてきた国債（余りにも安易な依存で、租税体系をいじるといふ努力を放棄）が略発行停止に追込まれ、国家予算構造の大変革（我が班は日本が変わらざるを得ない第三の外圧と称している）を迫られる中で老後を過ごさざるを得なくなって来る。日本民族は歴史学者も正常性バイアスが極めて高く『そんな不都合なことは起きない。起きないとひたすら信じる。情報分析がへたくそな民族だと言っている』先の太平洋戦争の顛末をみれば解る。小泉総理の言う『昔 陸軍 今 国債』は成長一本槍のアベノミクスのピークの東京オリンピックが迫る中では全くのお蔵入りである。

<次ページにつづく>

- 11、日銀の国債購入のどこが問題なのかと反論者（後述する統合政府論）が多いが、年80兆もの国債が日銀に移転するなか、日銀占有率50～70%とほぼ一対一のプレー構造に変化する中で、財務省も国家負担を軽減することは最大の使命と思ひ（金融機関の5%強制応礼義務、指値買いオペによる利回り固定化、発行額の70%を占める借換債の処理が実態である。今のゼロ金利債、40年債にドンドン振り替える）そのことに邁進するが、結果的にそれが合成の“ごびゆう”となる。即ち債権市場から見れば限りなく永久無利子国債化（債権の劣化、不良債権化）に向かって突き進んでいるとしか言えない。近頃、この日銀の国債購入策の出口論が少しずつ囁かれ始めたが、0.1%の上昇にも総力上げて抑え込みにかかるぐらいだから出口論なんてのは成立しない。金利上昇は安倍内閣にとってもはや鬼門である。黒田総裁は出口にはいろんな手段があり、誰でもできると発言し2018年4月の退任に向けて準備に入っている。総裁はこの政策の結果の恐ろしさを解っており、とても安倍総理との心中は避けたいところである。日本の国債市場崩壊させた日銀総裁という歴史の教科書に載ることだけは避けたいはず。正に幕末の徳川慶喜の心境である。数年前独メルケル首相が来日した際、安倍総理に財政の事をもっと真剣にとアドバイスされたが、馬耳東風メディアも一切、報じない。1990年代からオオカミ少年の如く国債暴落が言われてきたが、仮に大量の売りが出ても、日銀の全量購入でもはやそれは無い。同じく財政破綻と言う言葉もメディアで長らく唱えられてきたが、50兆の税金がある限り破綻はない。あるのは歳出の削減のみである。このやりとりを見て日銀は政府の子会社（政府日銀一体統合）なのだからいつでも債権債務は相殺出来るのだから日本はアベノミクスが始まってから無借金国になっていると若手エコノミストが主張し始めた。政府-日銀統合 a/c 国債 政府日銀当座預金 国債 民間銀行日銀当座預金（国民預金）債務超過額 結局 民間当座預金、債務超過額が残る、こんな都合のいい話は100%ない。2020年代は日銀の国債保有700兆、日銀の債務超過、長期金利急上昇による新発国債の発行停止等戦後経済の総決算が求められる時代になる。
- 12、もうひとつの最大テーマである大量破壊兵器を持った北朝鮮国家（4～5年内には達成か）の行く末ですが、東アジアの 専門家筋ではこんな大胆な予測をする。【戦後世界の秩序と警察官を担ってきた米国G1の時代は既にブッシュ政権時代で終わっており、ロナルド・レーガン、カール・ロビンソンの戦略空母軍団がすすごと日本海を去っていく姿は米国が最早、軍事先制攻撃を諦めた証左（北の軍事報復能力が極めて高く、日韓の被害が余りにも大きい。安倍総理の会見で壊滅的打撃を受ける大量の化学兵器を保有を認めている。もともと米共和党は朝鮮半島に興味はない。マティス国防長官も戦争シミュレーションでこの戦争はできないと断言）であり、これに対抗するに米国防省によると北がミサイル発射時に同時爆破する究極のミサイル防衛しかあり得ない。しかし略実現は難しく結局は第二次ポツダム会談（敗戦後の日本の処理を会議）的なものが4～5年先に米中露にて行われ、第一次の米国ベースとは裏腹にG2時代を担う中国による朝鮮半島全体の管理（極論すれば、在韓米軍と中国人民解放軍との入れ替え）というような米側の大幅譲歩がない（中国が本気になる施策）と北の軍事国家解体はできないであろう。文在寅大統領が登場するのは中国管理による統一朝鮮への歴史的流れなのかもしれない。中国が日本のバブル崩壊が米側の要請で鬼平こと三重野日銀総裁が急激に金利を上げたことが中心になりその後の日本の低成長のきっかけとなったことを熟知しているのと同じように、古代高句麗の血の流れを引き継ぐ北朝鮮は太平洋戦争を研究し、真珠湾奇襲攻撃のような大国米国への先制攻撃を絶対仕掛けることはなく、報復能力を高めていけば、必ず活路があると信じている。そうなんです38度線の引き直しと在日米軍の充実しか当面对応できない。南ベトナム敗戦のような韓国民の大量流出もあり得るかもしれないし、ひょっとして生産年齢人口激減に悩む日本にとって朗報になるかもしれない】
- 13、高度成長とは裏腹にオイルショック、バブルの発生、崩壊、アジア金融危機、リーマンショックという激動を経験してきた団塊世代は外は朝鮮有事、内は政府債務と個人金融資産が拮抗し、国家予算構造の大変革の中で老後を過ごさざるを得ないだろう。今、この世を去りつつある大正・昭和一ケタ世代は比較的年金に守られながら老後を過ごせたが、果たしてマイナンバーで資産を国家に管理される（2020年前後に銀行既設口座と連結される）団塊世代は？
 (2017年7月記) 日本生産性本部認定コンサルタントによる財政問題研究会 歴史問題研究班 班長 不動産鑑定士 山口 孜

戦後73年目の光と影

今年戦後の昭和20年8月から73年目に入っています。その歴史の中で光と影を体験した一人として未来の日本を支える若い人達に伝える責務の一端として私の感想と実感を述べて置きます。好きな言葉に“歴史に学ぶ”と言う箴言があります。今の現況を鑑みると危機的状況にあり、日々悪化の一途を辿っている様子です。要因は戦後の敗戦国の日本の対応に大きく起因している。江戸時代から明治、大正、昭和と先人が営々と築いてきた“人間教育”と言う大きな資産を捨て去り戦勝国の意のまま自らの頭と脚で考える事無く、礎となっていた弱者を労わり、強さを鍛える武士道をはじめ教育勅語や徳育と言った“人間らしさ”を育成する大切な教育を置き去りにして経済一辺倒を目指してきた事が最大の要因です。

先人が築いてきた人間教育と言う大切な資産を日々食い尽くしている状況です。東日本大震災で米軍がトモダチ作戦で水や食料が数日間届かない地区のお婆さんにやっとな手渡そうとした時、その人は兵士に“私の事はいいから、もっと難渋している人が先に居るからそちらを先に”と言われた米軍が日本人の優しさと強さに感動しメディアで大々的に報じられた事は周知の事。海外では我先にと殺到する状況を自然に見聞きしている人達には驚愕だったと思います。

司馬遼太郎氏のエッセーや小説にも度々登場し日本も植民地化しようとの目論見とその調査で幕末に来日した英国人のアーネスト・サトウやロシアの通訳官も異口同音に日本人の優しさ、律義さ、それに教育水準の高さに接して本国へ日本の植民地化の不可能なる事の意見書を送っています。この事実も米軍のトモダチ作戦の感動と本質は同じです。

先人が営々と築いてきた資産も高齢者を中心に僅かばかり残っているのが現状です。

最近では大企業がグレー化、ブラック化している事を多く見聞きします。そして弱者である小さな子供達へのイジメ問題や虐待、高齢者や障害者に対する暴力や果ては殺戮まで、毎朝、新聞のページをめくると恐ろしくなります。我家にも現況に不安と焦りを感じる人達が時折訪れますが高齢者が多く、子供の頃に大連で終戦を迎え、突然のソ連軍の攻撃に母親と命ながら帰国された人もおられ、その人は今の日本の様子を大手新聞の短歌、俳句欄に投稿され、先般は拉致問題をテーマとした短歌が激賞され幾度も入選を果し、不安とストレスを紙面にも表現し続けておられます。私達の仲間内では将来の日本再生へのキーワードを一言で表現すれば“教育”であると理解しています。

百年の計を固める人は育てよの箴言通り教育の中心は幼児や小さい子供達への教育であります。政治家でこの事柄に一番一所懸命になっているのが安倍首相です。メディアにはその教育問題で少々イジメられていますが自信と誇りを以って進めて欲しいと皆が願っています。友人の経営者は日本に新聞、TV等のメディアにも方向性を与える所謂、“知の巨人”が存在しなくなって久しいがその事が影が増々大きくなる要因であると喝破しています。50年程前の学生時代に私にとっては智の巨人以上の存在である安岡正篤氏の著書を読み込んだ思い出があります。

氏は陽明学の大家でもあり、終戦の詔勅を起草した事でも知られています。

30年以上前に鬼籍に入られたので泉下で切齒扼腕しておられると思います。高名な政治家、実業家へ多くの提言、助言を残してこられた氏ならば安倍首相に何と助言、提言されるのかを夢想しながら秋の夜長に氏の著書を紐解きながら少しばかりの楽しい一時を一杯のコーヒーと共に過ごしています。

(記) 2017.10.1 プランメゾン株式会社 代表取締役 白屋 健二

～VEC関西より～

・「てんこもり」を始めて、もう13年も経つのです。VEC関係者が様々なご意見を発信する情報誌として、一応の成果を確信しています。そして、いつまでも継続して行きたいものです。継続は大きな力となりますので我々の思いを長く継承できることを願っています。(本田)

・今年もあっという間に過ぎた1年でした。大きな病気も怪我もなく健康で仕事に遊びにと過ごせたように感じております。これからもVECでの出会いは大切にしていきたいと思っております。皆様有難うございました。来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。(藤本)

・早いもので2017年が過ぎ去ろうとしています。今年名古屋での交流会に何度か参加し、関西だけでなく他府県の活動も勉強させて頂きました。特に大学生発のベンチャー起業が面白く感銘しました。来年も色々な方々とお会いできるのが楽しみです。(濱本)

・新年を迎えるにあたり皆様から示唆に富んだメッセージを頂き、またこの1年間ご寄稿賜りました方々に感謝いたします。1月号からは発行月を3ヶ月毎に変更しましてさらに充実した内容を目指して参ります。来年もVECをよろしく願い申し上げます。(澤村)

★次回 交流会のご案内 (1月の交流会開催はございません)
 ・平成30年2月9日(金) 午後6時から 場所: 綿業会館
 ・講師: 本田技研工業株式会社 主幹 溝端 健二様